

依存症の疑いがある方の  
受診状況等に関するアンケート調査

結果報告書

令和 8 年 3 月

横浜市健康福祉局 精神保健福祉課



# 目次

第1章 アンケート調査の実施概要.....	2
1. アンケート調査の実施目的.....	2
2. 調査実施概要.....	2
(1) 調査実施時期.....	2
(2) 調査票の種類.....	2
(3) 調査対象の選定・抽出.....	2
(4) 調査手法.....	4
(5) 調査項目.....	4
(6) 回収状況.....	4
第2章 調査結果.....	5
1. 各設問の回答状況.....	5
(1) 診療所(診療科)の状況について.....	5
(2) 依存症が疑われる患者への対応について.....	12
(3) 依存症が疑われる患者への対応に当たっての課題や期待することについて.....	27
2. 調査結果のまとめ.....	36
(1) 今年度結果の小括.....	36
(2) 前回(令和3(2021)年度)結果との比較.....	38
参考資料1 クロス集計表.....	43
参考資料2 精神科・心療内科向け調査 アンケート調査票.....	55
参考資料3 その他診療科目向け調査 アンケート調査票.....	59

# 第1章 アンケート調査の実施概要

## 1. アンケート調査の実施目的

横浜市では、アルコール、薬物、ギャンブル等の総合的な依存症対策の推進に向けて、様々な取組を進めてきた。依存症対策における支援の方向性を関係機関・団体の支援者と共有することにより、包括的な支援の提供を目指すため、関係機関・団体へのヒアリング等を実施した上で、令和3年10月に「横浜市依存症対策地域支援計画」(計画期間:令和3年度～令和7年度)を策定した。

また、横浜市内の医療機関における、依存症の疑いがある方の受診状況・対応状況等の把握や、依存症対応にかかる医療機関間の円滑な連携に資する施策を検討するための基礎資料とすることを目的に、依存症の疑いがある方の受診状況等に関するアンケート調査を実施し、令和4年3月に調査結果報告書を公表した。

令和7年度に第2期横浜市依存症対策地域支援計画(計画期間:令和8年度～令和12年度)の策定を行うに当たり、横浜市内の医療機関における依存症の対応状況が、前回調査時点からどのように変化しているのか、依存症対応においてどのようなことが問題になっているのか等について明らかにし、計画改定のための基礎資料とすることを目的として、アンケート調査を実施した。

## 2. 調査実施概要

### (1) 調査実施時期

本調査は、令和7年7月18日～8月8日の期間で実施した。

### (2) 調査票の種類

調査票の種類については、図1の通り、2種類とした。

図1 調査票の種類

調査票の種類	調査対象
①精神科・心療内科向け調査票 (以下、「精神科・心療内科向け」)	横浜市内に立地しており、診療科目について「精神科」あるいは「心療内科」を標ぼうしている病院の診療科及び一般診療所。
②精神科・心療内科以外向け調査票 (以下、「その他診療科目向け」)	横浜市内に立地しており、診療科目について「精神科」あるいは「心療内科」以外を標ぼうしている病院の診療科及び一般診療所。

### (3) 調査対象の選定・抽出

横浜市ホームページにおいて公開されているオープンデータより、令和7年4月1日時点で開業している病

院・診療所のうち、標ぼうしている診療科で選定基準を定め、「精神科・心療内科向け」「その他診療科目向け」両調査合計で 3,000 件となるよう、無作為抽出した。選定・抽出の基準については、下記の通りである。

### 1) 精神科・心療内科向け調査

下記の診療科を標ぼうしている病院・診療所すべてに、「精神科・心療内科向け」調査票を 1 部送付した。

図 2 「精神科・心療内科向け調査」の調査対象

心療内科、精神科、精神科(思春期)、精神科(小児)、精神科(神経)、精神科(老年)、内科(心療)、精神科(児童)

※ その他の診療科目を標ぼうしている病院・診療所も含む。

### 2) その他診療科目向け調査

すべての病院について、下記の図 3 の診療科を標ぼうしている場合は、該当している診療科目数分の「その他診療科目向け調査」調査票を送付した。

図 3 「その他診療科目向け調査」の調査対象(病院)

こう門科、胃腸科、脳神経外科、婦人科、産婦人科、消化器科、神経科、神経内科、整形外科、外科(腫瘍・整形)、外科(整形)、外科(頭頸部)、外科(脳神経)  
内科、内科(肛門)、内科(胃腸)、内科(肝臓)、内科(血液・腫瘍)、内科(腫瘍)、内科(循環器)  
内科(循環器・小児)、内科(消化器)、内科(神経)、内科(代謝・糖尿病)、内科(糖尿病)  
内科(内視鏡)、内科(内分泌・糖尿病)、内科(脳神経)、内科(老年)

また、診療所については、下記条件のいずれにも該当しない診療所を「その他診療科目向け調査」の対象として抽出し、診療所 1 件につき調査票を 1 部送付した。

【「その他診療科目向け調査」で調査対象外となる診療所の条件】

- ・下記の図 4 の診療科のみを標ぼうしている場合
- ・「特定」または「休止」のステータスである場合
- ・「精神科・心療内科向け調査」の調査対象である場合

図 4 「その他診療科目向け調査」で調査対象外となる標ぼう診療科目(診療所)

アレルギー科、リウマチ科、リハビリ科、外科(美容)、眼科、歯科、歯科(矯正)  
歯科(口腔外科)、歯科(小児)、皮膚科(美容)、放射線科、麻酔科、臨床検査科

### 3) 無作為抽出の方法

図表 2～4 の基準に従って抽出された調査対象件数は下記の図 5 の通りである。病院・診療所の合計

3,322 件のうち、送付数が 3,000 件となるよう、診療所の「その他診療科目向け調査」送付対象から 2,042 件を無作為抽出の上調査票を送付した(図 6)。

図 5 病院・診療所抽出件数

	病院	診療所	合計
精神科・心療内科向け調査	63 件	299 件	362 件
その他診療科目向け調査	596 件	2,364 件	2,960 件
合計	659 件	2,663 件	3,322 件

図 6 調査票送付件数

	病院	診療所	合計
精神科・心療内科向け調査	63 件	299 件	362 件
その他診療科目向け調査	596 件	2,042 件	2,638 件
合計	659 件	2,341 件	3,000 件

#### (4) 調査手法

郵送による配布・回収を実施した。回収率向上のため、調査期間中に、調査対象に対して、本調査に関するお礼状兼督促状を 1 回送付した。

#### (5) 調査項目

本報告書資料編所収の調査票を参照。

#### (6) 回収状況

回収状況については、下記の通りである。

図 7 配布数・回収数、及び回収率

調査票の種類	A:配布数	B:配布数 (不着等を除く)	C:回収数	D:回収率(%) (C/B)
①精神科・心療内科向け	362 件	361 件	150 件	41.6%
②その他診療科目向け	2,638 件	2,634 件	986 件	37.4%
合計	3,000 件	2,995 件	1,136 件	37.9%

## 第2章 調査結果

### 1. 各設問の回答状況

#### (1) 診療所(診療科)の状況について

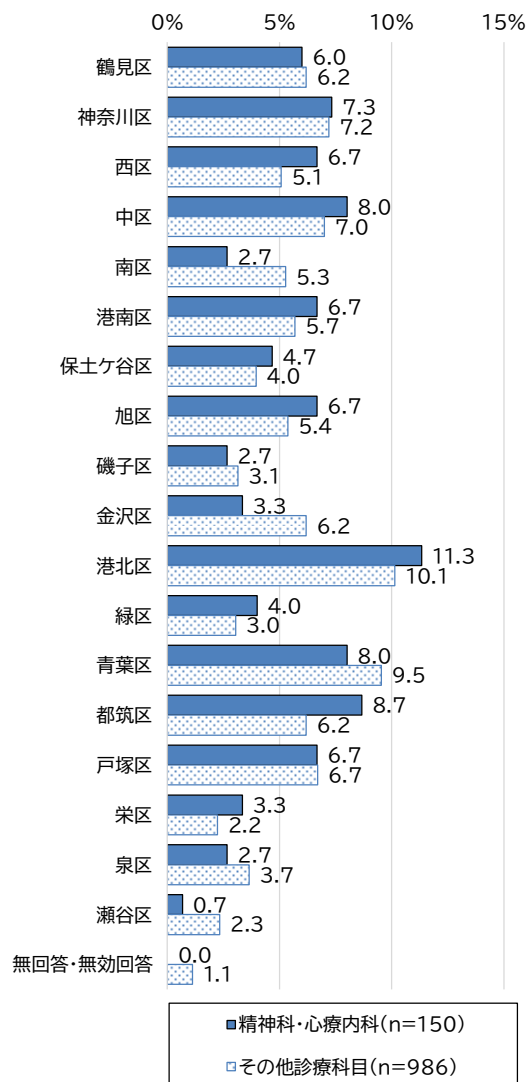
##### 1) 調査回答病院・診療所の所在地

調査回答病院・診療所の所在地は、精神科・心療内科では、「港北区」が 11.3%と最も多く、次いで「都筑区」が 8.7%、「中区」「青葉区」が 8.0%と多い。

その他診療科目では、「港北区」が 10.1%と最も多く、次いで「青葉区」が 9.5%、「神奈川区」が 7.2%と多い。

【精神科・心療内科、その他診療科目 問 1\_1】 貴診療所(貴診療科)の所在地を教えてください。

図 8 調査回答病院・診療所の所在地(単一回答)



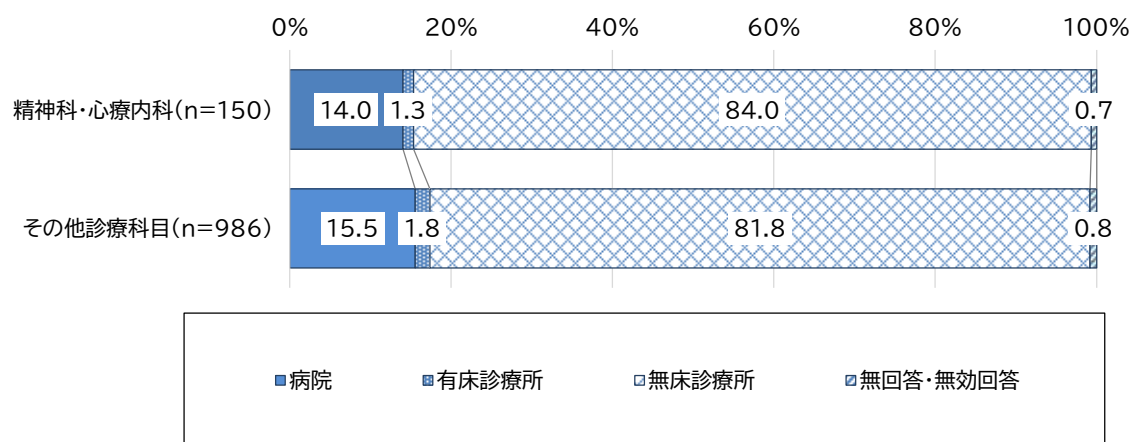
## 2) 病院・診療所の類型

類型は、精神科・心療内科では、「無床診療所」が 84.0%と最も多く、「病院」が 14.0%、「有床診療所」が 1.3%であった。

その他診療科目では、「無床診療所」が 81.8%と最も多く、「病院」が 15.5%、「有床診療所」が 1.8%であった。

【精神科・心療内科、その他診療科目 問 1\_3】 貴診療所(貴診療科)の類型を教えてください。

図 9 病院・診療所の類型 (単一回答)

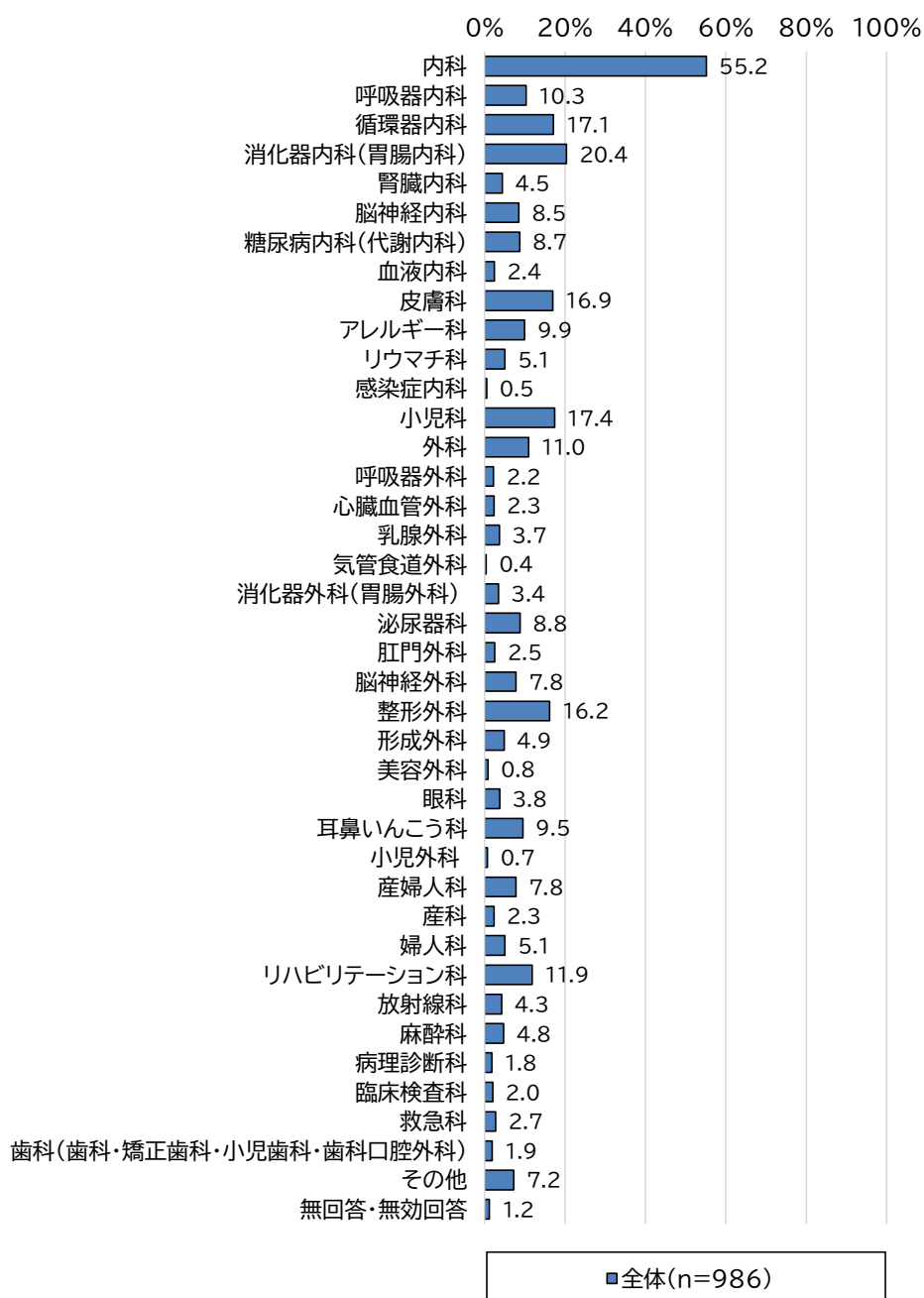


### 3) 診療所(診療科)で標ぼうしている診療科目(その他診療科目のみ)

診療所(診療科)で標ぼうしている診療科目は、「内科」が 55.2%と最も多く、次いで「消化器内科(胃腸内科)」が 20.4%、「小児科」が 17.4%と多い。

【その他診療科目 問 2】 貴診療所(貴診療科)で標ぼうしている診療科目を教えてください。

図 10 診療所(診療科)で標ぼうしている診療科目 (複数回答)



#### 4) 診療所(診療科)の主な診療科目(その他診療科目のみ)

診療所(診療科)における主な診療科目は、「内科」が 35.2%と最も多く、次いで「整形外科」が 9.7%、「小児科」が 7.5%と多い。

【その他診療科目 問 3】 問 1③において、「2.有床診療所」あるいは「3.無床診療所」と回答した方にのみお聞きいたします。問 2 で選択した診療科目のうち、主な診療科目を教えてください。

図 11 診療所(診療科)の主な診療科目(単一回答)



なお、本調査では一部設問について、主な診療科目を類型化したカテゴリにてクロス集計を行っている。主な診療科目のカテゴリ分類は下記の通りである。

図 12 診療科目のカテゴリ分類

分類	対象
内科系	問3の主な診療科目において、下記のいずれかを選択した医療機関。 「内科」「呼吸器内科」「循環器内科」「消化器内科(胃腸内科)」「腎臓内科」「脳神経内科」「糖尿病内科(代謝内科)」「血液内科」「アレルギー科」「リウマチ科」「感染症内科」「呼吸器外科」「心臓血管外科」「乳腺外科」「気管食道外科」「消化器外科(胃腸外科)」「泌尿器科」「肛門外科」「脳神経外科」
整形外科系	問3の主な診療科目において、下記のいずれかを選択した医療機関。 「外科」「整形外科」「形成外科」「小児外科」「リハビリテーション科」
産婦人科系	問3の主な診療科目において、下記のいずれかを選択した医療機関。 「産婦人科」「産科」「婦人科」
小児科系	問3の主な診療科目において、下記のいずれかを選択した医療機関。 「小児科」
その他	問3の主な診療科目において、下記のいずれかを選択した医療機関。 「皮膚科」「美容外科」「眼科」「耳鼻いんこう科」「放射線科」「麻酔科」「病理診断科」「臨床検査科」「救急科」「歯科(歯科・矯正歯科・小児歯科・歯科口腔外科)」

分類に当たっての留意点は下記の通り。

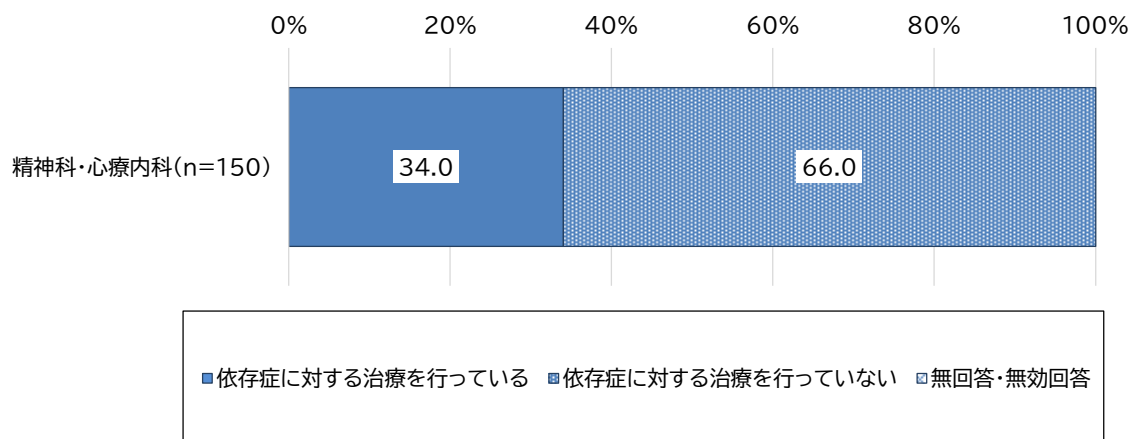
- 病院に関しては、問3の回答が不要であったため、問2の回答状況から適宜、分類。
- 一部の病院にて、上記の分類をまたいだ診療科目の回答がみられたことから、これらについては、「科目重複(病院のみ)」と分類。
- 主な診療科目を「その他」としている診療所については、具体の記載内容に基づき分類し、いずれの分類にも当てはまらない記載内容のみ、診療科目のカテゴリ分類を「その他」に分類。
- 主な診療科目が無回答であるものの、問2の回答内容から絞り込める場合には該当の内容に分類。判別不能の病院・診療所については、「分類不能」に分類。

### 5) 精神科・心療内科における依存症治療への対応状況(精神科・心療内科のみ)

精神科・心療内科における依存症治療への対応状況は、「依存症に対する治療を行っている」が34.0%、「依存症に対する治療を行っていない」が66.0%であった。

【精神科・心療内科 問 2】 貴診療所(貴診療科)における依存症治療への対応状況を教えてください。

図 13 診療所(診療科)における依存症治療への対応状況(単一回答)

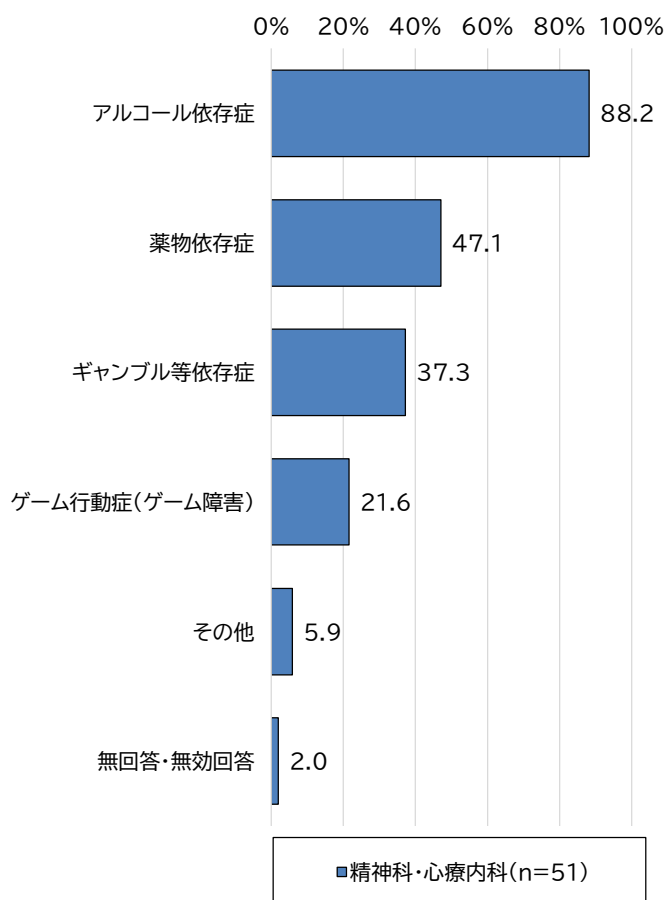


## 6) 治療を行っている依存症の種類(精神科・心療内科のみ)

依存症に対する治療を行っている精神科・心療内科において、治療を行っている依存症の種類は、「アルコール依存症」が88.2%と最も多く、次いで「薬物依存症」が47.1%、「ギャンブル等依存症」が37.3%と多い。

【精神科・心療内科 問 3】 治療を行っている依存症の種類を教えてください(問2で「依存症に対する治療を行っている」と回答した方のみ)。

図 14 治療を行っている依存症の種類(複数回答)



## (2) 依存症が疑われる患者への対応について

### 7) 1年間(2024年6月1日から2025年5月31日)における、依存症が疑われる患者の来院・入院頻度

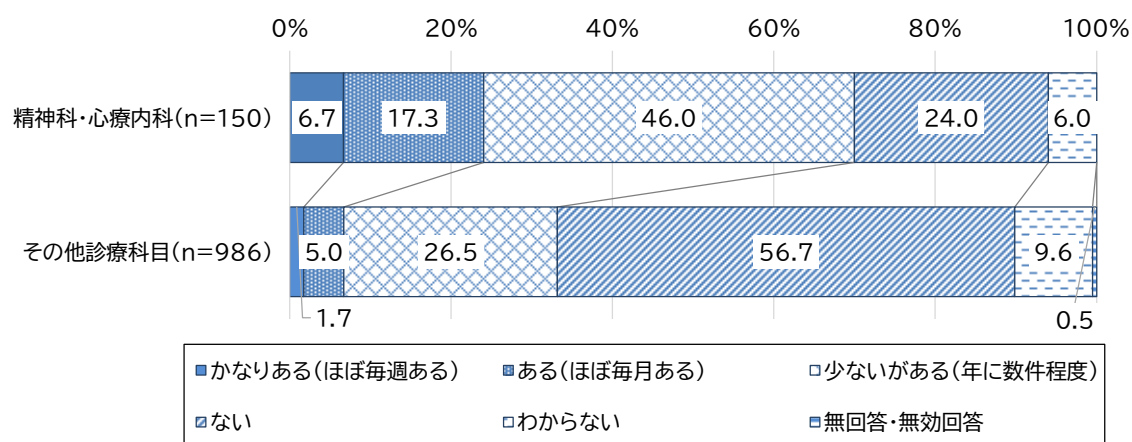
1年間(2024年6月1日から2025年5月31日)における、依存症が疑われる患者の来院・入院頻度は、精神科・心療内科では、「少ないがある(年に数件程度)」が46.0%と最も多く、次いで「ない」が24.0%、「ある(ほぼ毎月ある)」が17.3%と多い。

その他診療科目では、「ない」が56.7%と最も多く、次いで「少ないがある(年に数件程度)」が26.5%、「わからない」が9.6%と多い。

【精神科・心療内科、その他診療科目 問4】2024年6月1日から2025年5月31日の1年間において、貴診療所(貴診療科)のすべての患者の中で、何らかの依存症が疑われる患者(※)(以下、「依存症が疑われる患者」という)が来院・入院された頻度を教えてください。

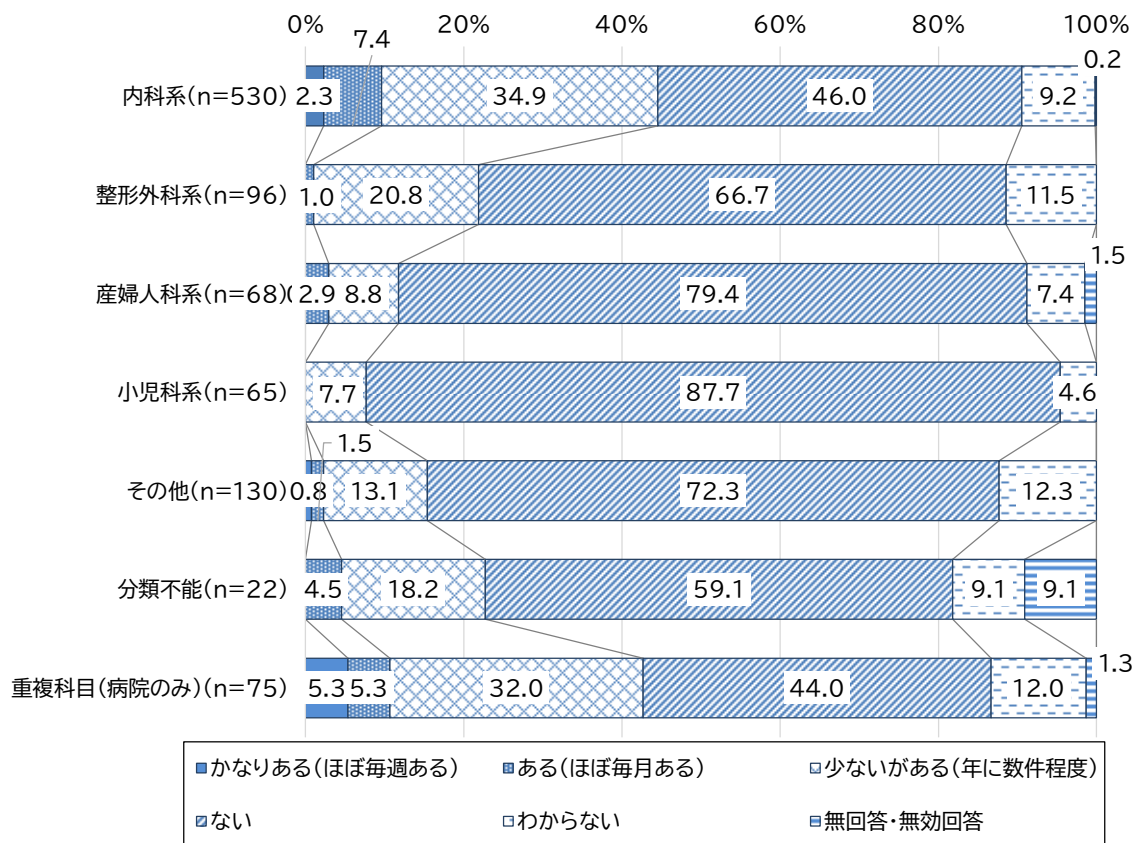
(※)他の医療機関で依存症との確定診断を受けている患者は除外してご回答ください。

図 15 1年間(2024年6月1日から2025年5月31日)における、  
依存症が疑われる患者の来院・入院頻度(単一回答)



1年間(2024年6月1日から2025年5月31日)における、依存症が疑われる患者の来院・入院頻度を診療科目カテゴリ別にみると、いずれの診療科目カテゴリにおいても「ない」の回答が最も多くなっている。「内科系」では、「かなりある(ほぼ毎週ある)」、「ある(ほぼ毎月ある)」、「少ないがある(年に数件程度)」の回答の合計が44.6%と、他の診療科目カテゴリと比べると最も多くなっている。

図 16 診療科目カテゴリ別 1年間(2024年6月1日から2025年5月31日)における、依存症が疑われる患者の来院・入院頻度(その他診療科目のみ)(単一回答)



### 8) 依存症が疑われる患者における、疑われる依存症の種類

依存症が疑われる患者における、疑われる依存症の種類は、精神科・心療内科では、「アルコール依存症」が 86.7%と最も多く、次いで「薬物依存症」が 49.5%、「ギャンブル等依存症」が 30.5%と多い。

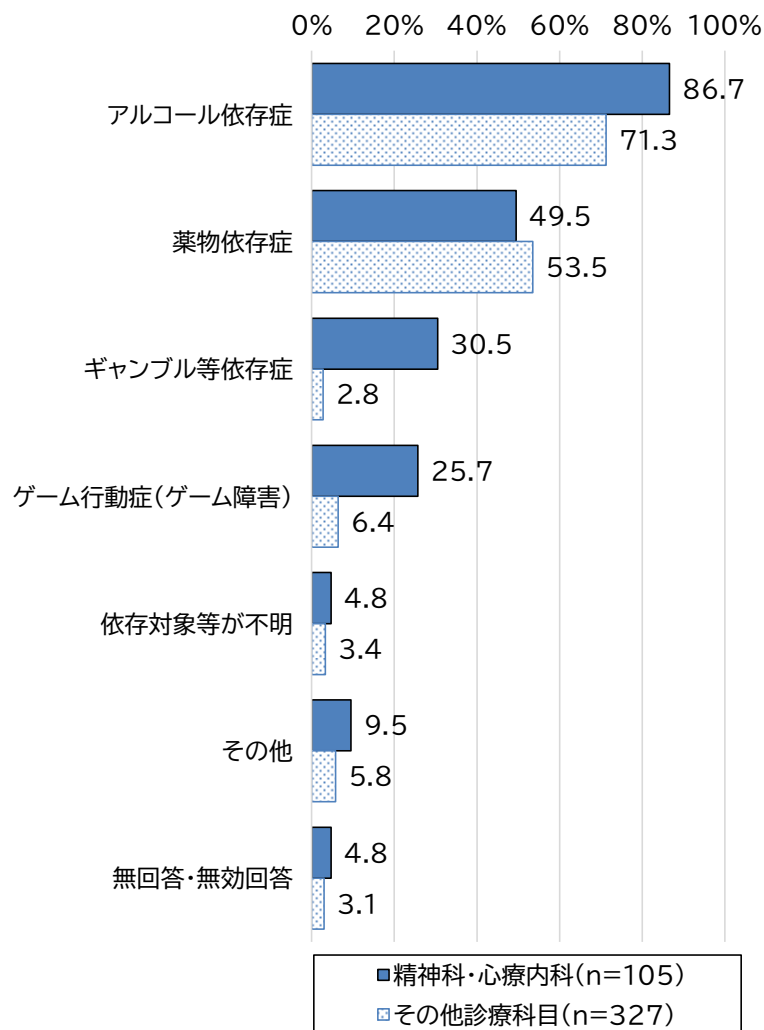
その他診療科目では、「アルコール依存症」が 71.3%と最も多く、次いで「薬物依存症」が 53.5%、「ゲーム行動症(ゲーム障害)」が 6.4%と多い。

【精神科・心療内科、その他診療科目 問 5】 当該患者において、疑われる依存症の種類を教えてください。

※問 5～問 11 は、問 4 で「1.かなりある(ほぼ毎週ある)」～「3.少ないがある(年に数件程度)」と回答した方のみご回答ください。(その他の方は問 12 へお進みください。)当該患者において、疑われる依存症の種類を教えてください。

※問4で「1.かなりある(ほぼ毎週ある)」～「3.少ないがある(年に数件程度)」と回答した方のみ。

図 17 依存症が疑われる患者における、疑われる依存症の種類(複数回答)



### 9) 依存症の疑いに気付いたきっかけ

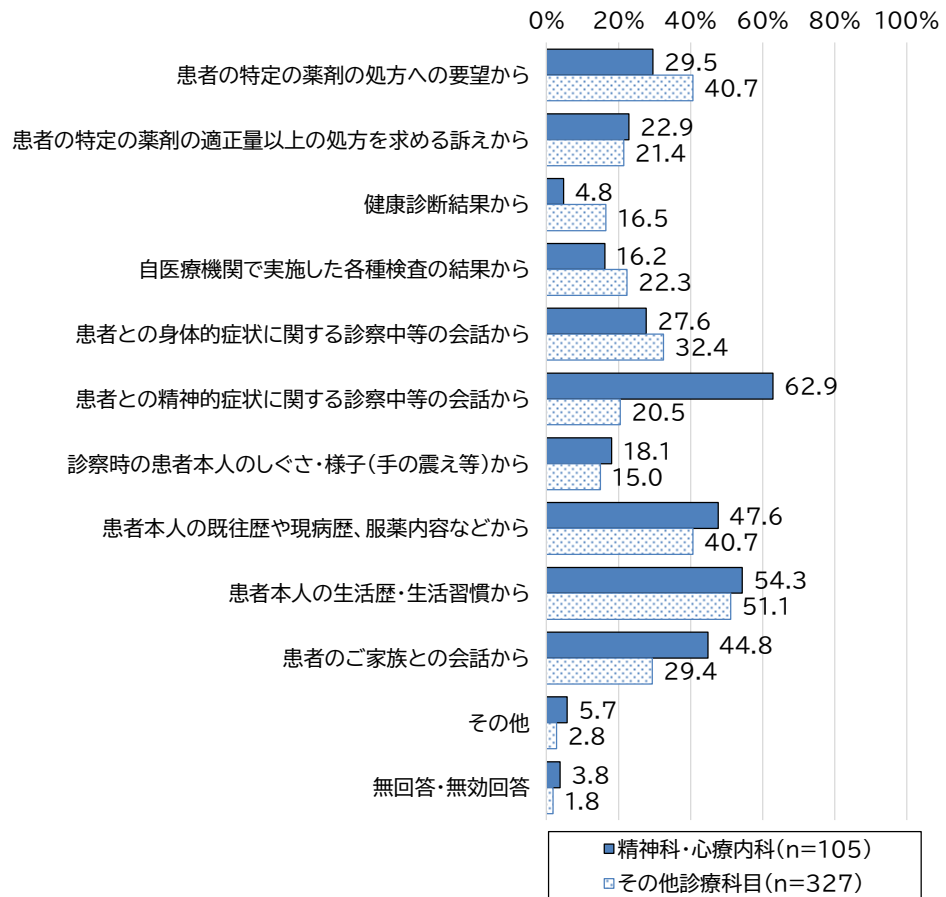
依存症の疑いに気付いたきっかけは、精神科・心療内科では、「患者との精神的症状に関する診察中等の会話から」が 62.9%と最も多く、次いで「患者本人の生活歴・生活習慣から」が 54.3%、「患者本人の既往歴や現病歴、服薬内容などから」が 47.6%と多い。

その他診療科目では、「患者本人の生活歴・生活習慣から」が 51.1%と最も多く、次いで「患者の特定の薬剤の処方への要望から」「患者本人の既往歴や現病歴、服薬内容などから」が 40.7%と多い。

【精神科・心療内科、その他診療科目 問 6】 依存症が疑われる患者について、どのような点から依存症の疑いに気付かれたか教えてください。

※問4で「1.かなりある(ほぼ毎週ある)」～「3.少ないがある(年に数件程度)」と回答した方のみ。

図 18 依存症の疑いに気付いたきっかけ(複数回答)



## 10) 依存症の疑いに気が付くことが多い職種

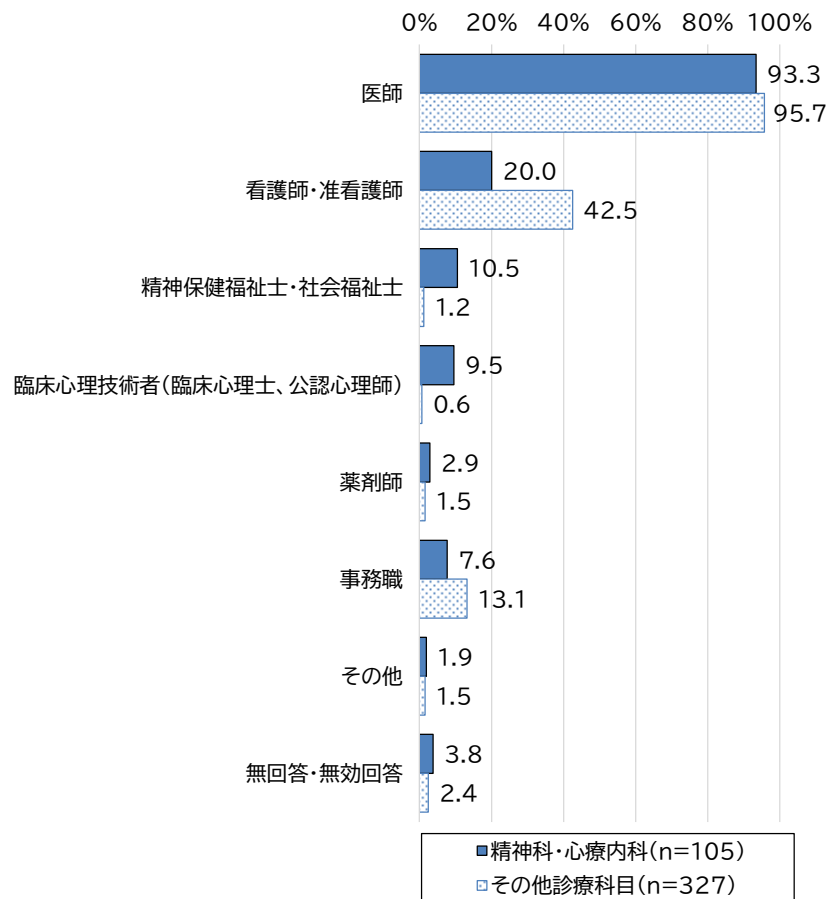
依存症の疑いに気が付くことが多い職種は、精神科・心療内科では、「医師」が 93.3%と最も多く、次いで「看護師・准看護師」が 20.0%、「精神保健福祉士・社会福祉士」が 10.5%と多い。

その他診療科目では、「医師」が 95.7%と最も多く、次いで「看護師・准看護師」が 42.5%、「事務職」が 13.1%と多い。

【精神科・心療内科、その他診療科目 問 7】 貴診療所(貴診療科)において、どのような職種のスタッフが、患者の依存症の疑いに気が付くことが多いか教えてください。

※問4で「1.かなりある(ほぼ毎週ある)」～「3.少ないがある(年に数件程度)」と回答した方のみ。

図 19 依存症の疑いに気が付くことが多い職種 (複数回答)



11) 依存症が疑われる患者の増減状況 ①10代後半から20代の若年層の患者

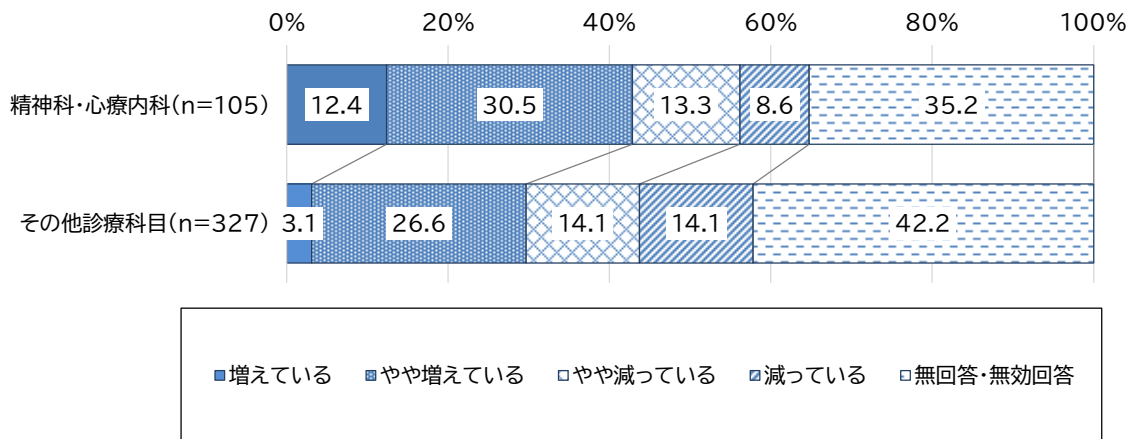
10代後半から20代の若年層で依存症が疑われる患者の増減状況は、精神科・心療内科では、「無回答・無効回答」が35.2%と最も多く、次いで「やや増えている」が30.5%、「やや減っている」が13.3%と多い。

その他診療科目では、「無回答・無効回答」が42.2%と最も多く、次いで「やや増えている」が26.6%、「やや減っている」「減っている」が14.1%と多い。

【精神科・心療内科、その他診療科目 問8.1】 依存症が疑われる患者について、下記のような方の近年(直近2~3年)の増減状況について教えてください。①10代後半から20代の若年層の患者

※問4で「1.かなりある(ほぼ毎週ある)」~「3.少ないがある(年に数件程度)」と回答した方のみ。

図 20 依存症が疑われる患者の増減状況 ①10代後半から20代の若年層の患者 (単一回答)

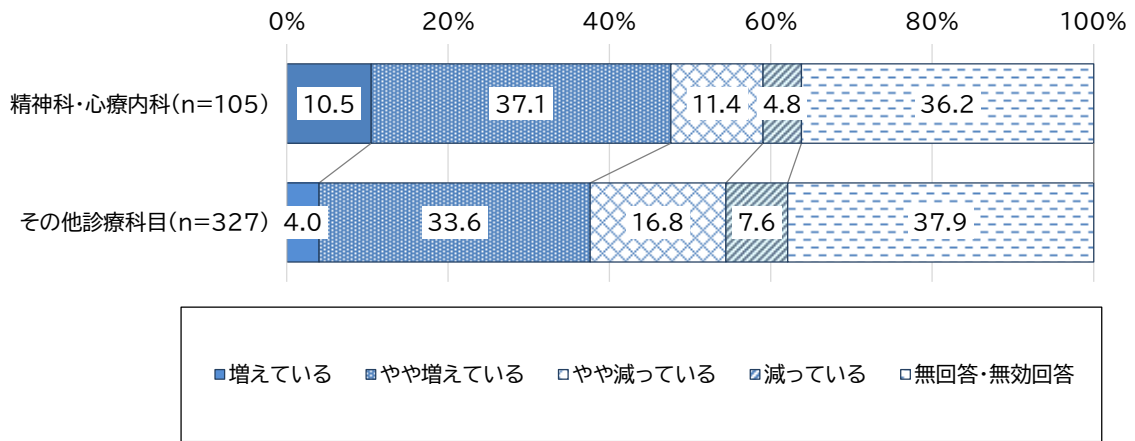


12) 依存症が疑われる患者の増減状況 ②市販薬や処方薬への依存が疑われる患者

市販薬や処方薬への依存が疑われる患者の増減状況は、精神科・心療内科では、「やや増えている」が37.1%と最も多く、次いで「無回答・無効回答」が36.2%、「やや減っている」が11.4%と多い。  
 その他診療科目では、「無回答・無効回答」が37.9%と最も多く、次いで「やや増えている」が33.6%、「やや減っている」が16.8%と多い。

【精神科・心療内科、その他診療科目 問8\_2】 依存症が疑われる患者について、下記のような方の近年(直近2～3年)の増減状況について教えてください。②市販薬や処方薬への依存が疑われる患者  
 ※問4で「1.かなりある(ほぼ毎週ある)」～「3.少ないがある(年に数件程度)」と回答した方のみ。

図 21 依存症が疑われる患者の増減状況 ②市販薬や処方薬への依存が疑われる患者(単一回答)



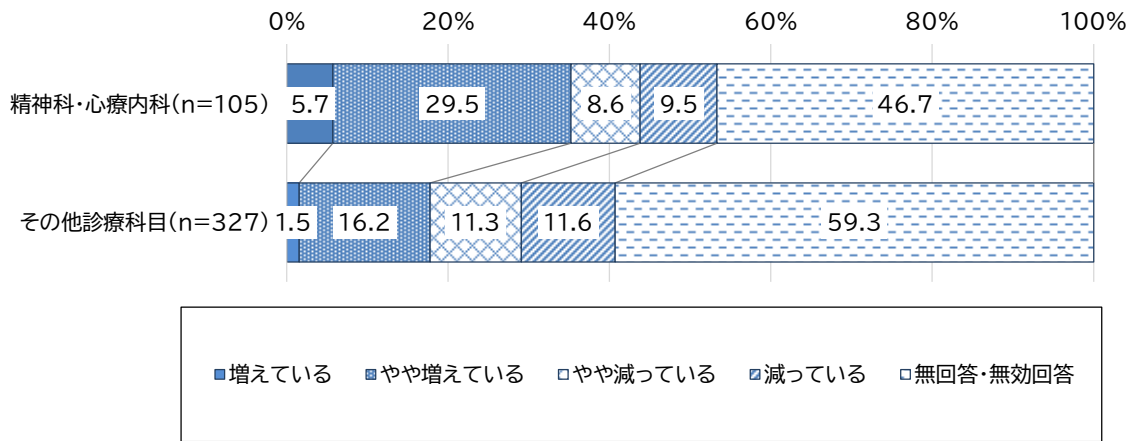
13) 依存症が疑われる患者の増減状況 ③オンラインギャンブルへの依存が疑われる患者

オンラインギャンブルへの依存が疑われる患者の増減状況は、精神科・心療内科では、「無回答・無効回答」が46.7%と最も多く、次いで「やや増えている」が29.5%、「減っている」が9.5%と多い。

その他診療科目では、「無回答・無効回答」が59.3%と最も多く、次いで「やや増えている」が16.2%、「減っている」が11.6%と多い。

【精神科・心療内科、その他診療科目 問8\_3】 依存症が疑われる患者について、下記のような方の近年(直近2~3年)の増減状況について教えてください。③オンラインギャンブルへの依存が疑われる患者  
※問4で「1.かなりある(ほぼ毎週ある)」~「3.少ないがある(年に数件程度)」と回答した方のみ。

図 22 依存症が疑われる患者の増減状況 ③オンラインギャンブルへの依存が疑われる患者(単一回答)



14) 依存症が疑われる患者の増減状況 ④(依存症の診断基準を満たしていないが)自身が依存症ではないかと不安を訴える患者

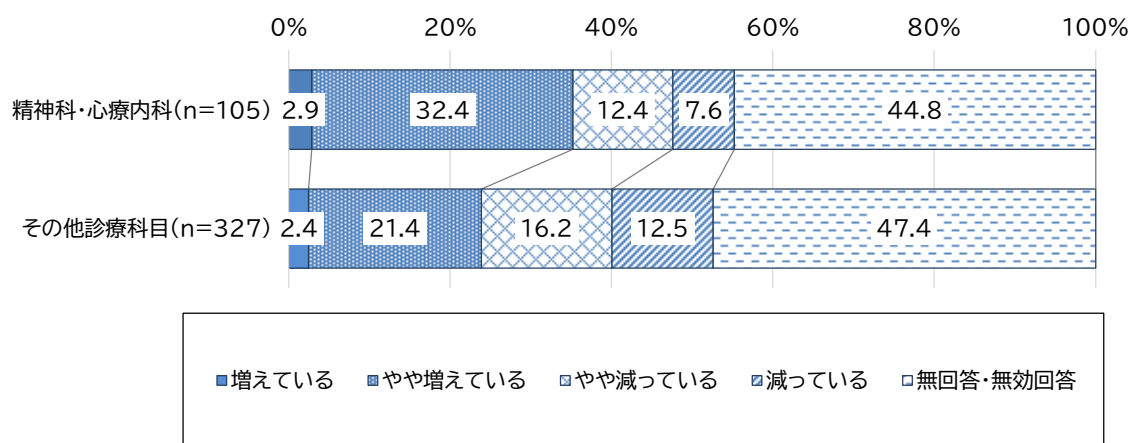
依存症の診断基準を満たしていないが自身が依存症ではないかと不安を訴える患者は、精神科・心療内科では、「無回答・無効回答」が 44.8%と最も多く、次いで「やや増えている」が 32.4%、「やや減っている」が 12.4%と多い。  
 その他診療科目では、「無回答・無効回答」が 47.4%と最も多く、次いで「やや増えている」が 21.4%、「やや減っている」が 16.2%と多い。

【精神科・心療内科、その他診療科目 問8\_4】 依存症が疑われる患者について、下記のような方の近年(直近2~3年)の増減状況について教えてください。④(依存症の診断基準を満たしていないが)自身が依存症ではないかと不安を訴える患者

※問4で「1.かなりある(ほぼ毎週ある)」~「3.少ないがある(年に数件程度)」と回答した方のみ。

図 23 依存症が疑われる患者の増減状況

④(依存症の診断基準を満たしていないが)自身が依存症ではないかと不安を訴える患者(単一回答)



### 15) 依存症が疑われる患者の増減状況 ⑤その他

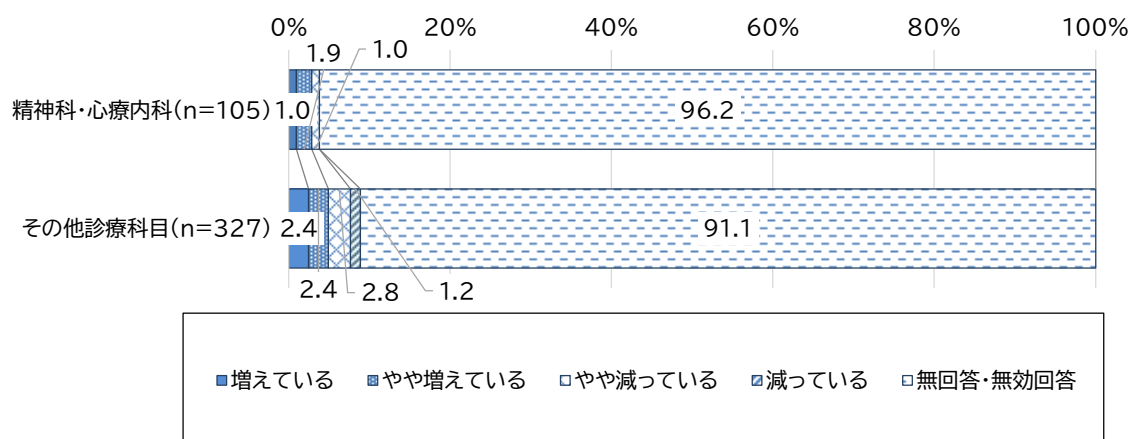
その他の依存症が疑われる患者の増減状況は、精神科・心療内科では、「無回答・無効回答」が96.2%と最も多く、次いで「やや増えている」が1.9%、「増えている」「やや減っている」が1.0%となっている。

その他診療科目では、「無回答・無効回答」が91.1%と最も多く、次いで「やや減っている」が2.8%、「増えている」「やや増えている」が2.4%となっている。

【精神科・心療内科、その他診療科目 問 8.5】 依存症が疑われる患者について、下記のような方の近年(直近2～3年)の増減状況について教えてください。⑤その他

※問4で「1.かなりある(ほぼ毎週ある)」～「3.少ないがある(年に数件程度)」と回答した方のみ。

図 24 依存症が疑われる患者の増減状況 ⑤その他(単一回答)



## 16) 依存症が疑われる患者の主訴

依存症が疑われる患者の主訴は、精神科・心療内科では「依存物質・行動に関するもの」が52件と最も多く、次いで「飲酒(アルコール)」が43件、「不眠」が31件と多い。

その他診療科目では「不眠」が97件と最も多く、次いで「飲酒(アルコール)」が78件、「依存物質・行動に関するもの」が69件と多い。

精神科・心療内科では大分類「精神症状に関するもの」が比較的多くみられる一方で、その他診療科目では大分類「身体症状に関するもの」が多くみられる傾向にある。

【精神科・心療内科、その他診療科目 問9】依存症が疑われる患者について、貴診療所(貴診療科)を受診した際的主訴で多いものを教えてください。(上位3事例※)

問4で「1.かなりある(ほぼ毎週ある)」～「3.少ないがある(年に数件程度)」と回答した方のみ。

図 25 依存症が疑われる患者の主訴(自由回答)

大分類	中分類	精神科・心療内科	その他診療科目
依存症関連の行動に関するもの	薬の要望	5	57
	飲酒(アルコール)	43	78
	依存物質・行動に関するもの	52	69
身体症状に関するもの	消化器関連症状	0	21
	肝機能障害・関連症状	4	48
	全身症状(倦怠感、体重減少など)	5	34
	痛み(頭痛、身体の痛み)	2	19
	脳神経関連症状	5	12
	振戦、不随意運動、痙攣	1	10
	上気道・呼吸器関連症状	0	16
	ふらつき、めまい	0	5
	糖代謝異常	0	6
	心血管関連症状	0	11
	皮膚関連症状	0	2
	外傷	0	9
	その他身体症状	1	22
精神症状に関するもの	不眠	31	97
	うつ状態(抑うつ、うつ状態の訴え等)	22	4
	不安	14	21
	幻覚・幻聴	4	0
	その他精神症状	5	4
その他	問題行動等	9	11
	その他(情報源に関する分類)	20	32
	その他	4	13
合計		227	601

※ 1 事例に複数の主訴が記載されていた場合は、それぞれの主訴で集計しているため、合計の値は各調査の回答総数とは一致しない。

### 17) 依存症が疑われる患者に対して現在行っている対応

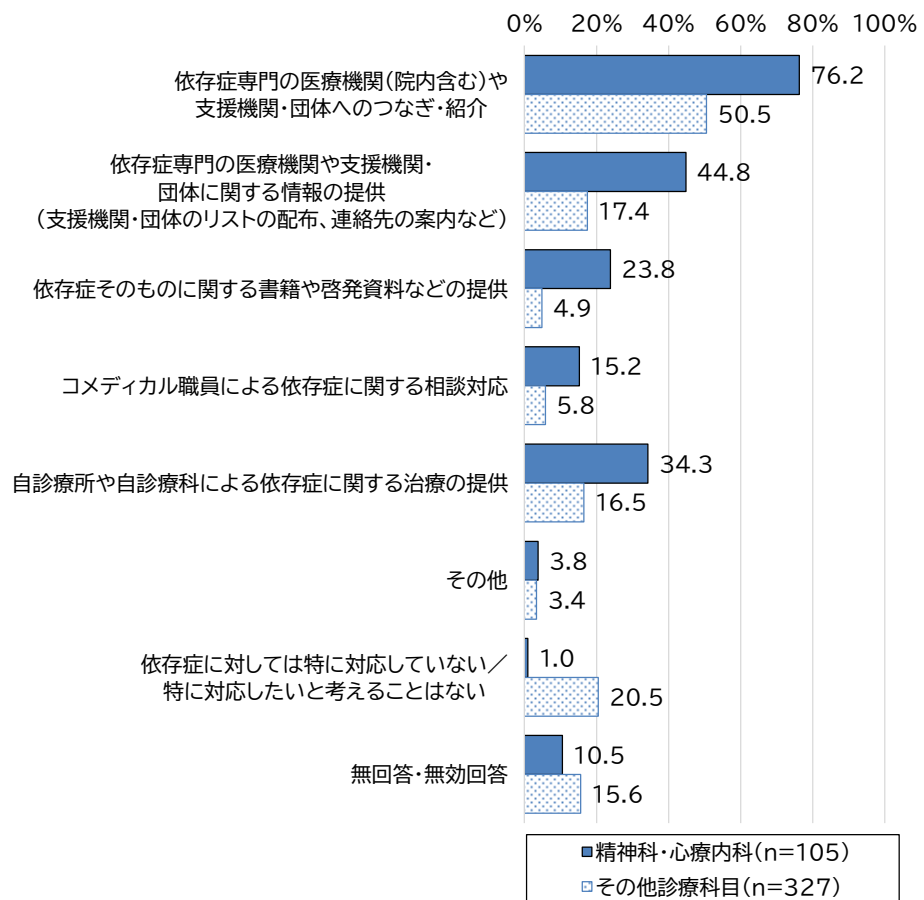
依存症が疑われる患者に対して現在行っている対応は、精神科・心療内科では、「依存症専門の医療機関(院内含む)や支援機関・団体へのつなぎ・紹介」が 76.2%と最も多く、次いで「依存症専門の医療機関や支援機関・団体に関する情報の提供(支援機関・団体のリストの配布、連絡先の案内など)」が 44.8%、「自診療所や自診療科による依存症に関する治療の提供」が 34.3%と多い。

その他診療科目では、「依存症専門の医療機関(院内含む)や支援機関・団体へのつなぎ・紹介」が 50.5%と最も多く、次いで「依存症に対しては特に対応していない／特に対応したいと考えることはない」が 20.5%、「依存症専門の医療機関や支援機関・団体に関する情報の提供(支援機関・団体のリストの配布、連絡先の案内など)」が 17.4%と多い。

【精神科・心療内科、その他診療科目 問 10\_1】 貴診療所(貴診療科)において、依存症が疑われる患者に対して、①現在行っている対応について教えてください。

※問4で「1.かなりある(ほぼ毎週ある)」～「3.少ないがある(年に数件程度)」と回答した方のみ。

図 26 依存症が疑われる患者に対して現在行っている対応(複数回答)



### 18) 依存症が疑われる患者に対して今後実施したいと考えている対応

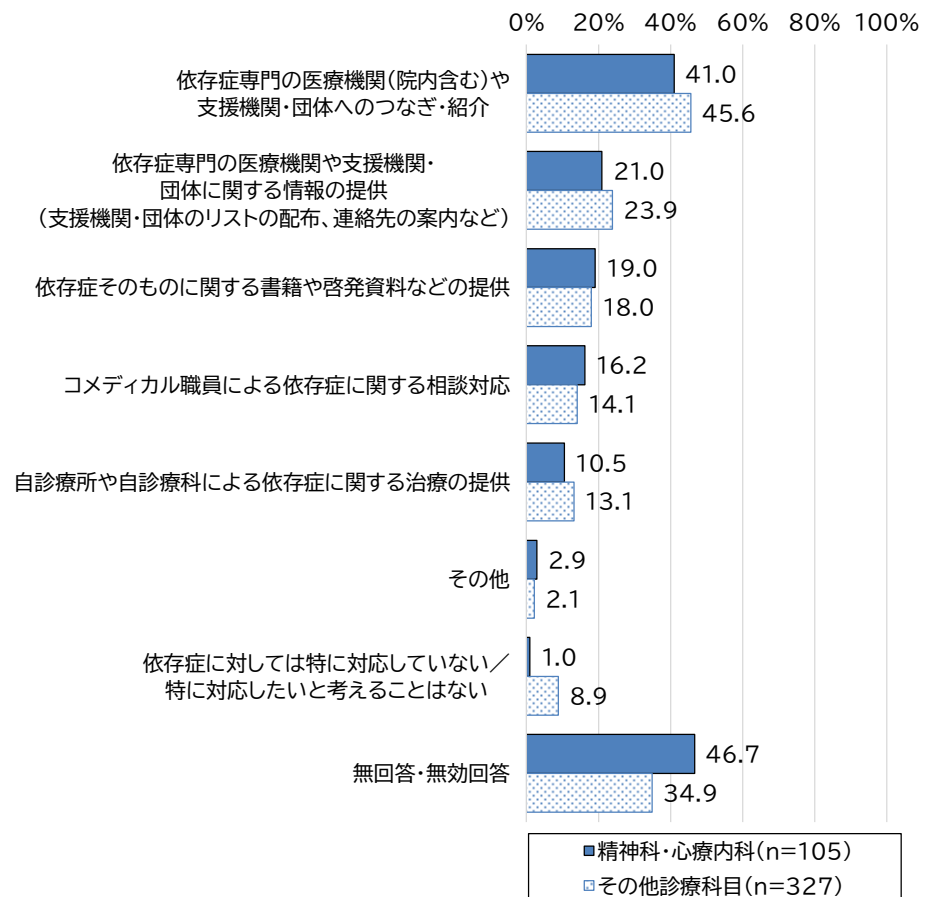
依存症が疑われる患者に対して今後実施したいと考えている対応は、精神科・心療内科では、「無回答・無効回答」が46.7%と最も多く、次いで「依存症専門の医療機関(院内含む)や支援機関・団体へのつなぎ・紹介」が41.0%、「依存症専門の医療機関や支援機関・団体に関する情報の提供(支援機関・団体のリストの配布、連絡先の案内など)」が21.0%と多い。

その他診療科目では、「依存症専門の医療機関(院内含む)や支援機関・団体へのつなぎ・紹介」が45.6%と最も多く、次いで「無回答・無効回答」が34.9%、「依存症専門の医療機関や支援機関・団体に関する情報の提供(支援機関・団体のリストの配布、連絡先の案内など)」が23.9%と多い。

【精神科・心療内科、その他診療科目 問 10\_2】 貴診療所(貴診療科)において、依存症が疑われる患者に対して、②今後実施したいと考えている対応について教えてください。

※問4で「1.かなりある(ほぼ毎週ある)」～「3.少ないがある(年に数件程度)」と回答した方のみ。

図 27 依存症が疑われる患者に対して今後実施したいと考えている対応(複数回答)



### 19) 依存症が疑われる患者への対応においてつなぎ・紹介を行ったことがある機関・団体

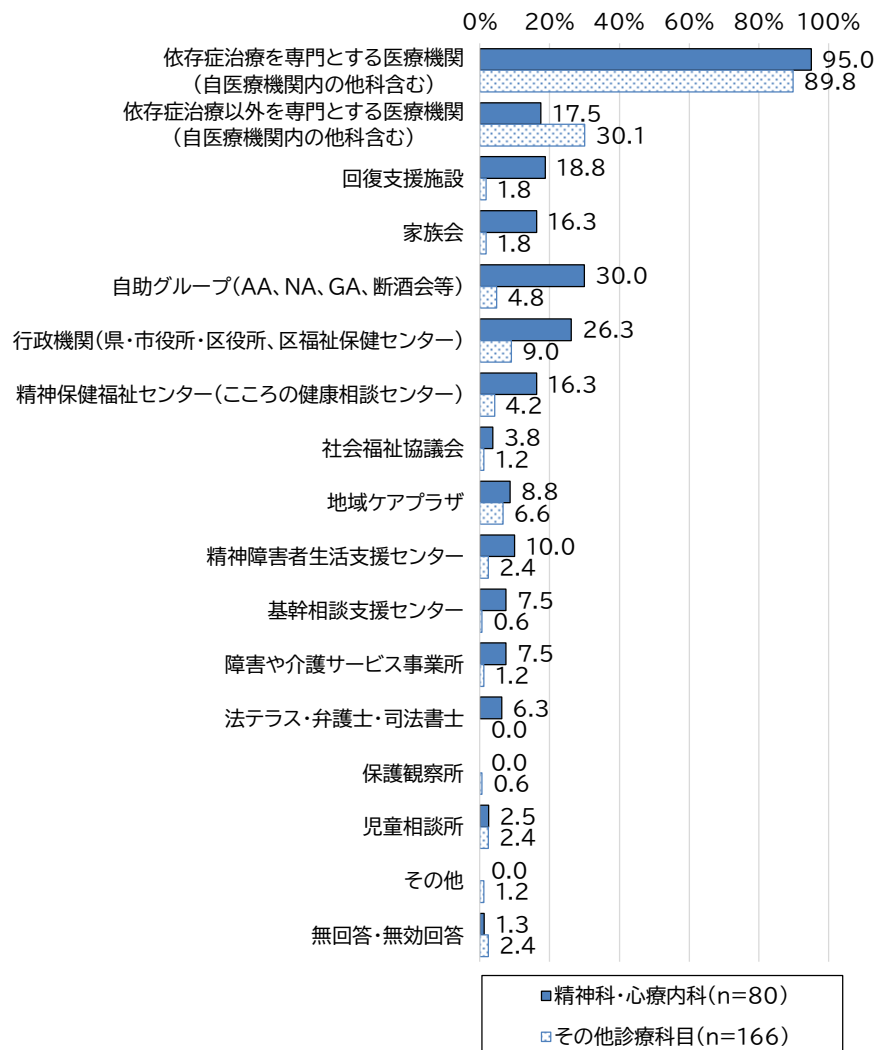
依存症が疑われる患者への対応においてつなぎ・紹介を行ったことがある機関・団体は、精神科・心療内科では、「依存症治療を専門とする医療機関(自医療機関内の他科含む)」が 95.0%と最も多く、次いで「自助グループ(AA、NA、GA、断酒会等)」が 30.0%、「行政機関(県・市役所・区役所、区福祉保健センター)」が 26.3%と多い。

その他診療科目では、「依存症治療を専門とする医療機関(自医療機関内の他科含む)」が 89.8%と最も多く、次いで「依存症治療以外を専門とする医療機関(自医療機関内の他科含む)」が 30.1%、「行政機関(県・市役所・区役所、区福祉保健センター)」が 9.0%と多い。

【精神科・心療内科、その他診療科目 問 11\_1】(問 11 は、問 10 の①あるいは②のいずれかにおいて、「1. 依存症専門の医療機関(院内含む)や支援機関・団体へのつなぎ・紹介」と回答した方のみおうかがいします。) 依存症が疑われる患者への対応において、①つなぎ・紹介を行ったことがある機関・団体を教えてください。

※問4で「1.かなりある(ほぼ毎週ある)」～「3.少ないがある(年に数件程度)」と回答した方のみ。

図 28 依存症が疑われる患者への対応において、  
つなぎ・紹介を行ったことがある機関・団体(複数回答)



## 20) 依存症が疑われる患者への対応において、今後つなぎ・紹介を行おうと考える機関・団体

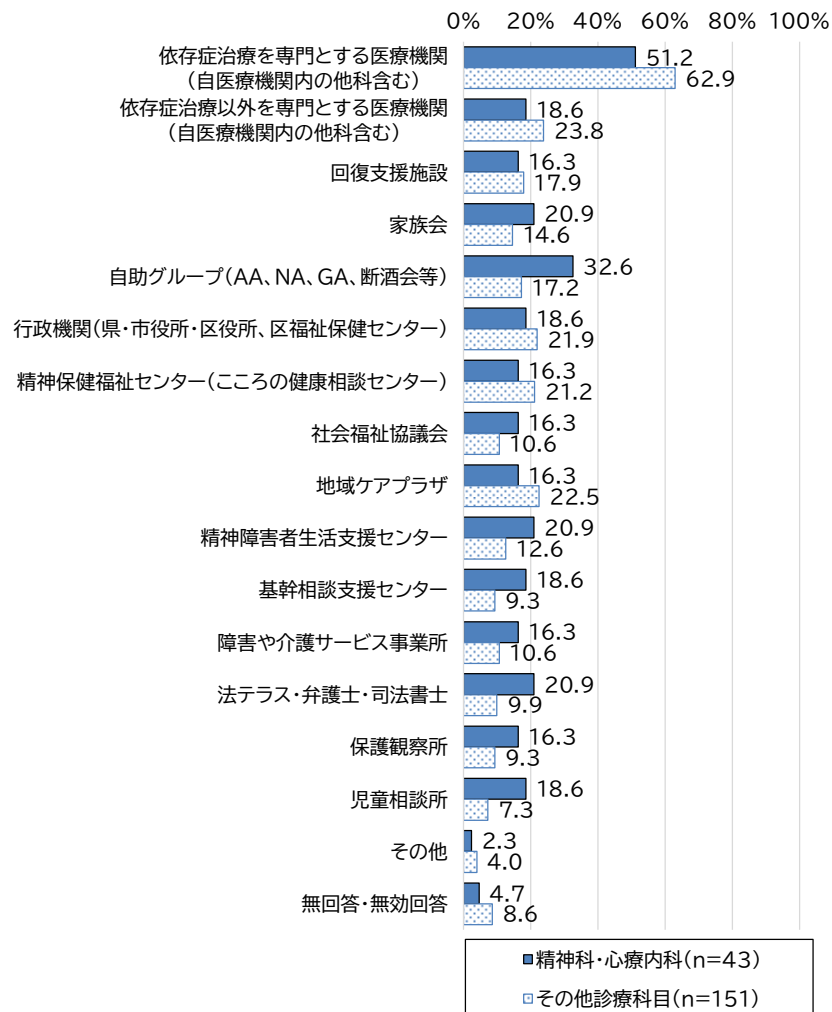
依存症が疑われる患者への対応において、今後つなぎ・紹介を行おうと考える機関・団体は、精神科・心療内科では、「依存症治療を専門とする医療機関(自医療機関内の他科含む)」が 51.2%と最も多く、次いで「自助グループ(AA、NA、GA、断酒会等)」が 32.6%、「家族会」「精神障害者生活支援センター」「法テラス・弁護士・司法書士」が 20.9%と多い。

その他診療科目では、「依存症治療を専門とする医療機関(自医療機関内の他科含む)」が 62.9%と最も多く、次いで「依存症治療以外を専門とする医療機関(自医療機関内の他科含む)」が 23.8%、「地域ケアプラザ」が 22.5%と多い。

【精神科・心療内科、その他診療科目 問 11\_2】(問 11 は、問 10 の①あるいは②のいずれかにおいて、「1. 依存症専門の医療機関(院内含む)や支援機関・団体へのつなぎ・紹介」と回答した方のみお答えいただけます。) 問11. 依存症が疑われる患者への対応において、②今後、つなぎ・紹介を行おうと考える機関・団体を教えてください。

※問4で「1.かなりある(ほぼ毎週ある)」～「3.少ないがある(年に数件程度)」と回答した方のみ。

図 29 依存症が疑われる患者への対応において、  
今後つなぎ・紹介を行おうと考える機関・団体(複数回答)



### (3) 依存症が疑われる患者への対応に当たっての課題や期待することについて

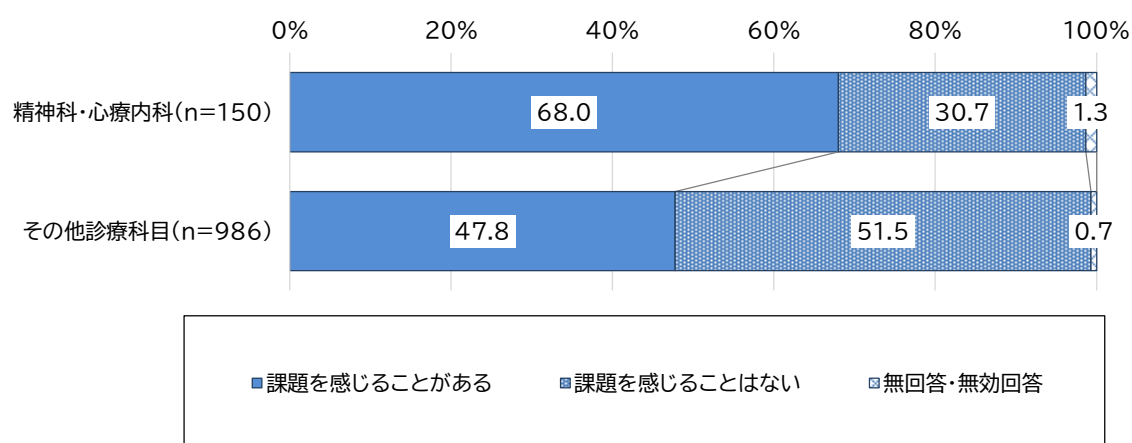
#### 21) 依存症が疑われる患者への対応に関する課題の有無

依存症が疑われる患者への対応に関する課題の有無は、精神科・心療内科では、「課題を感じる」とある」が 68.0%、「課題を感じることはない」が 30.7%となっている。

その他診療科目では、「課題を感じることはない」が 51.5%、「課題を感じる」とある」が 47.8%となっている。

【精神科・心療内科、その他診療科目 問 12】 貴診療所(貴診療科)において、依存症が疑われる患者への対応に関して課題を感じるかどうか教えてください。

図 30 依存症が疑われる患者への対応に関する課題の有無 (単一回答)



依存症が疑われる患者への対応に関する課題の有無を、依存症が疑われる患者の来院・入院頻度別にみると、精神科・心療内科では、来院・入院頻度が「かなりある/ある」の場合で「課題を感じることもある」の回答が88.9%、「ない」の場合で「課題を感じることもある」の回答が36.1%であった。

その他診療科目では、来院・入院頻度が「かなりある/ある」の場合で「課題を感じることもある」の回答が86.4%、「ない」の場合で「課題を感じることもある」の回答が29.3%であった。

図 31 依存症が疑われる患者の来院・入院頻度別  
依存症が疑われる患者への対応に関する課題の有無(精神科・心療内科、単一回答)

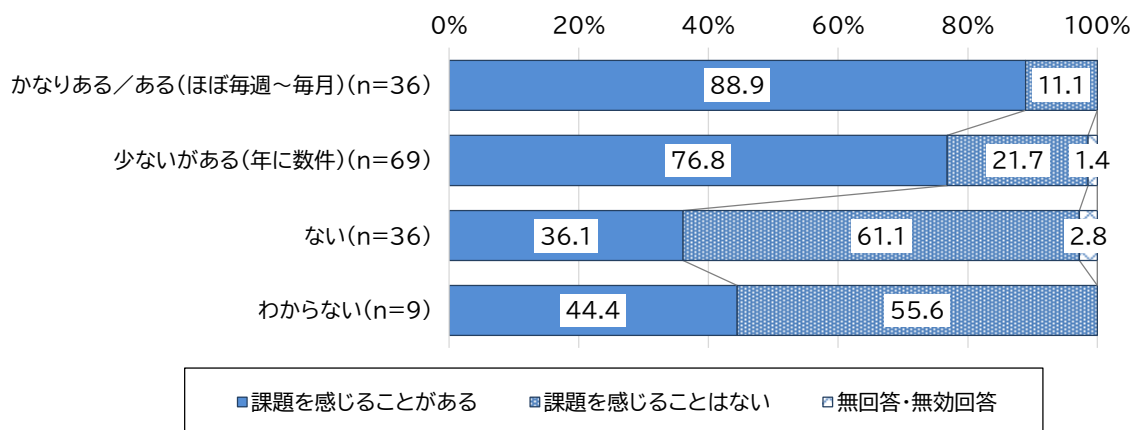
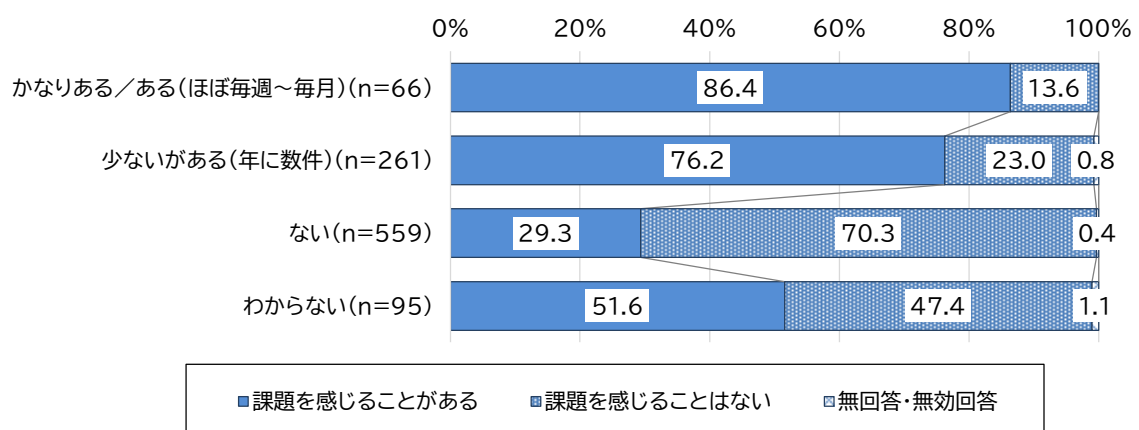


図 32 依存症が疑われる患者の来院・入院頻度別  
依存症が疑われる患者への対応に関する課題の有無(その他診療科目、単一回答)



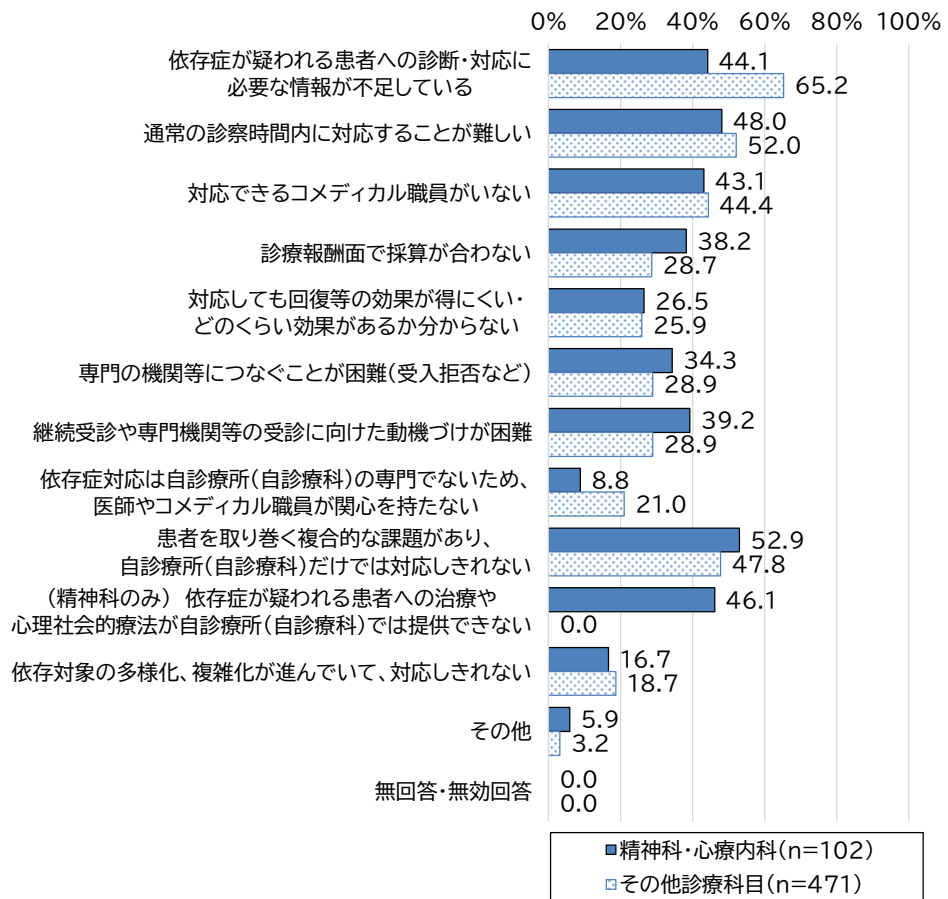
## 22) 依存症が疑われる患者への対応における課題

依存症が疑われる患者への対応における課題は、精神科・心療内科では、「患者を取り巻く複合的な課題があり、自診療所(自診療科)だけでは対応しきれない」が 52.9%と最も多く、次いで「通常の診察時間内に対応することが難しい」が 48.0%、「(精神科のみ) 依存症が疑われる患者への治療や心理社会的療法が自診療所(自診療科)では提供できない」が 46.1%と多い。

その他診療科目では、「依存症が疑われる患者への診断・対応に必要な情報が不足している」が 65.2%と最も多く、次いで「通常の診察時間内に対応することが難しい」が 52.0%、「患者を取り巻く複合的な課題があり、自診療所(自診療科)だけでは対応しきれない」が 47.8%と多い。

【精神科・心療内科、その他診療科目 問 13】(問 13 は、問 12 で「1. 課題を感じることもある」と回答した方にのみおうかがいします。) 依存症が疑われる患者への対応に当たり、お感じになる課題を教えてください。

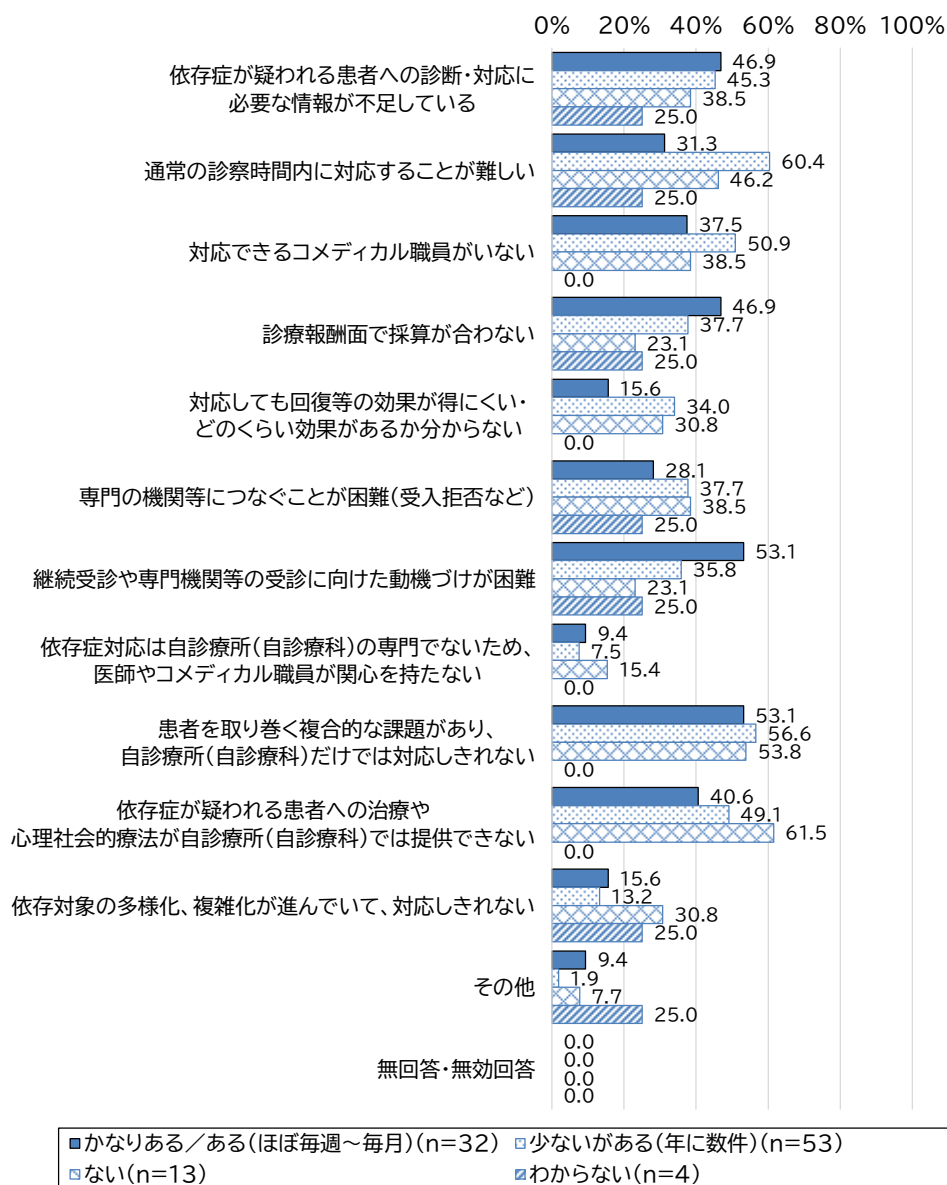
図 33 依存症が疑われる患者への対応における課題 (複数回答)



依存症が疑われる患者への対応における課題を、依存症が疑われる患者の来院・入院頻度別にみると、精神科・心療内科では、来院・入院頻度が「かなりある／ある」グループでは、「継続受診や専門機関等の受診に向けた動機づけが困難」「患者を取り巻く複合的な課題があり、自診療所(自診療科)だけでは対応しきれない」が最も多い。

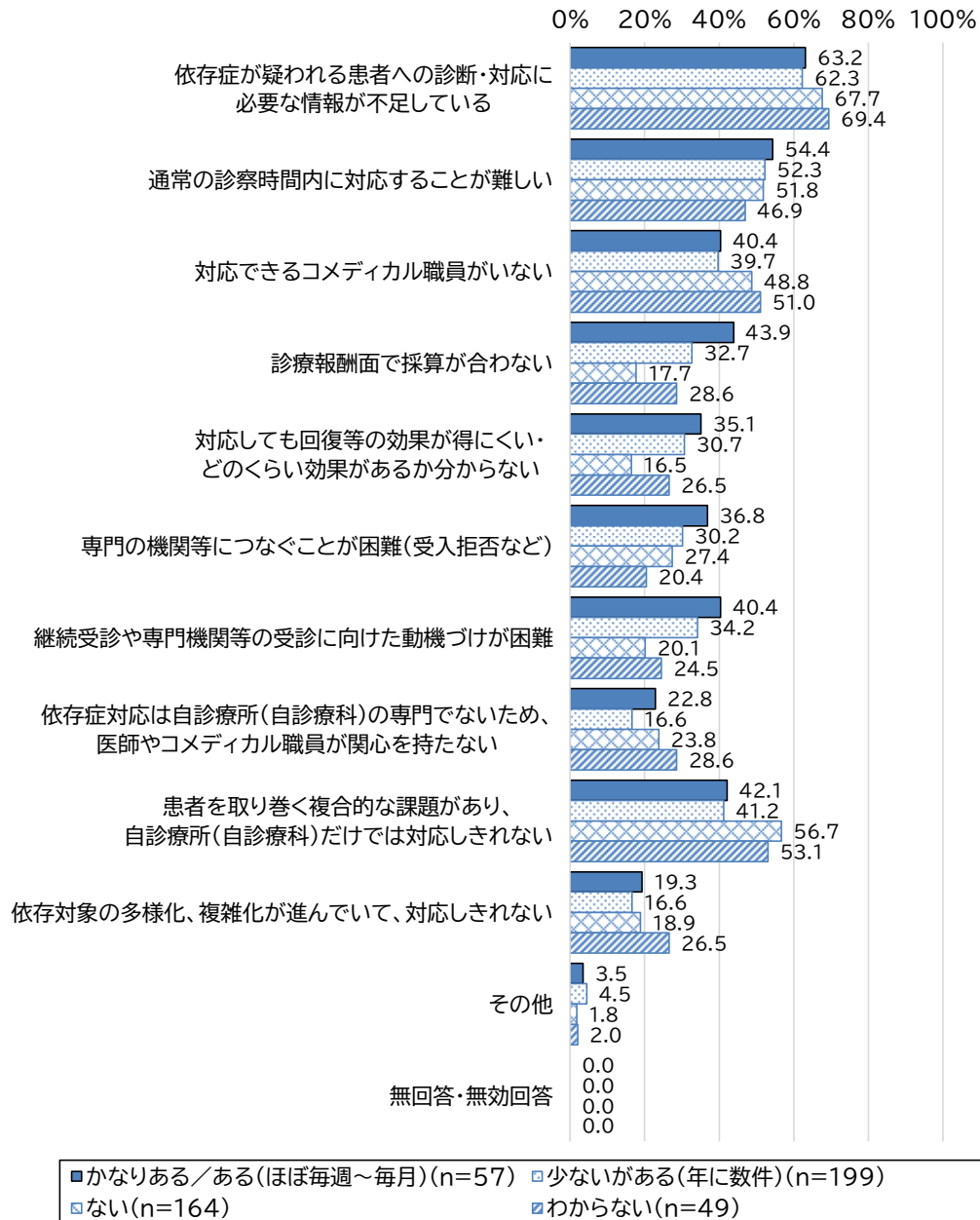
また、来院・入院頻度が「少ないがある」グループでは「通常の診察時間内に対応することが難しい」が、「ない」グループでは「依存症が疑われる患者への治療や心理社会的療法が自診療所(自診療科)では提供できない」がそれぞれ最も多くなっている。なお、「ない」グループでは回答数が他のグループと比べて少ない点に留意が必要である。

図 34 依存症が疑われる患者の来院・入院頻度別  
依存症が疑われる患者への対応における課題（精神科・心療内科、複数回答）



また、依存症が疑われる患者への対応における課題を、依存症が疑われる患者の来院・入院頻度別にみると、その他診療科目では、いずれの来院・入院頻度においても「依存症が疑われる患者への診断・対応に必要な情報が不足している」が最も多くなっている。

図 35 依存症が疑われる患者の来院・入院頻度別  
依存症が疑われる患者への対応における課題（その他診療科目、複数回答）



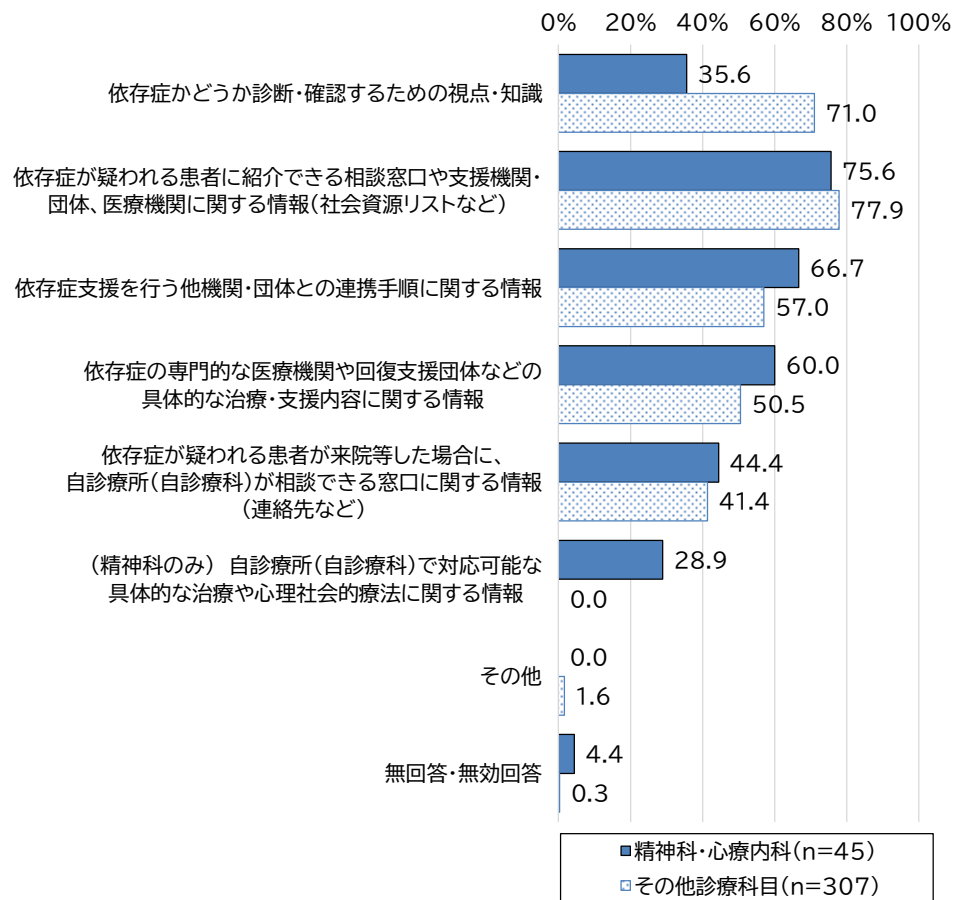
### 23) 依存症が疑われる患者への診断・対応において不足している情報

依存症が疑われる患者への診断・対応において不足している情報は、精神科・心療内科では、「依存症が疑われる患者に紹介できる相談窓口や支援機関・団体、医療機関に関する情報(社会資源リストなど)」が75.6%と最も多く、次いで「依存症支援を行う他機関・団体との連携手順に関する情報」が66.7%、「依存症の専門的な医療機関や回復支援団体などの具体的な治療・支援内容に関する情報」が60.0%と多い。

その他診療科目では、「依存症が疑われる患者に紹介できる相談窓口や支援機関・団体、医療機関に関する情報(社会資源リストなど)」が77.9%と最も多く、次いで「依存症かどうか診断・確認するための視点・知識」が71.0%、「依存症支援を行う他機関・団体との連携手順に関する情報」が57.0%と多い。

【精神科・心療内科、その他診療科目 問14】(問14は、問13で「1.依存症が疑われる患者への診断・対応に必要な情報が不足している」と回答した方のみお答えいただけます。)具体的にどのような情報が不足しているか教えてください。

図 36 依存症が疑われる患者への診断・対応において不足している情報(複数回答)



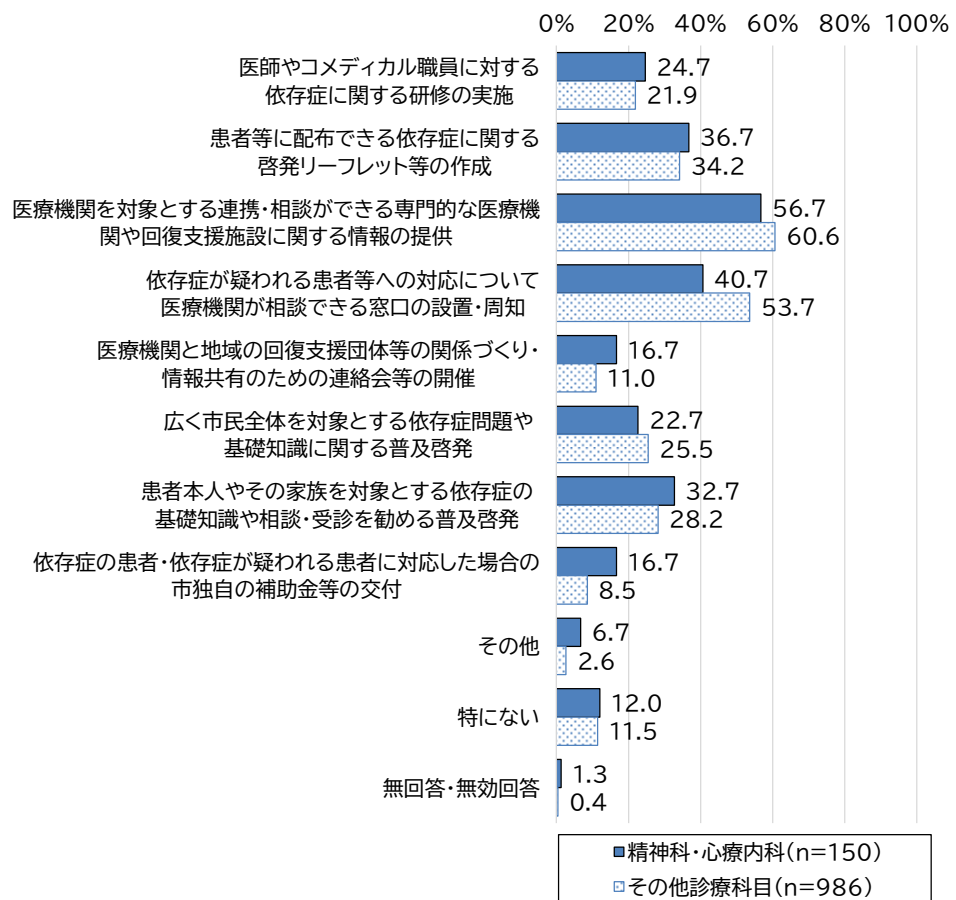
## 24) 依存症が疑われる患者への対応を進める上で、行政に期待すること

依存症が疑われる患者への対応を進める上で、行政に期待することは、精神科・心療内科では、「医療機関を対象とする連携・相談ができる専門的な医療機関や回復支援施設に関する情報の提供」が 56.7%と最も多く、次いで「依存症が疑われる患者等への対応について医療機関が相談できる窓口の設置・周知」が 40.7%、「患者等に配布できる依存症に関する啓発リーフレット等の作成」が 36.7%と多い。

その他診療科目では、「医療機関を対象とする連携・相談ができる専門的な医療機関や回復支援施設に関する情報の提供」が 60.6%と最も多く、次いで「依存症が疑われる患者等への対応について医療機関が相談できる窓口の設置・周知」が 53.7%、「患者等に配布できる依存症に関する啓発リーフレット等の作成」が 34.2%と多い。

【精神科・心療内科、その他診療科目 問 15】 貴診療所(貴診療科)が、依存症が疑われる患者への対応を進める上で、行政に期待することについて教えてください。

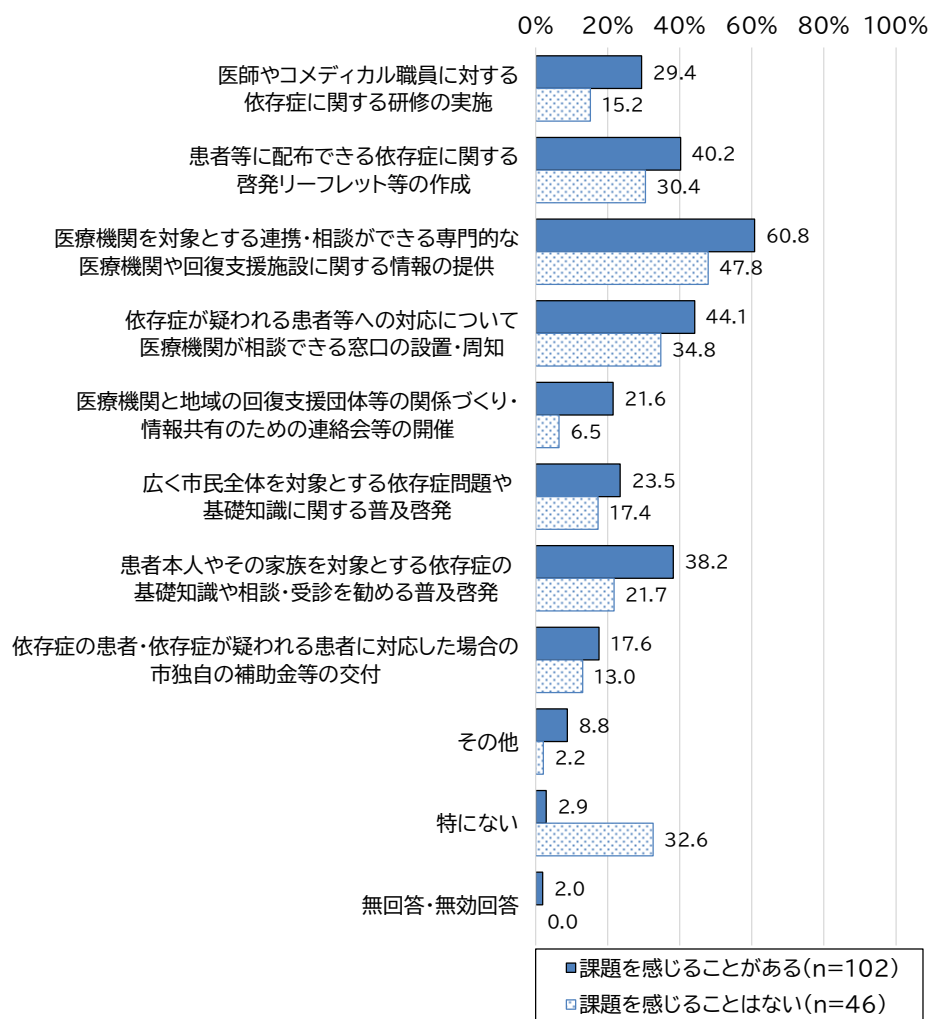
図 37 依存症が疑われる患者への対応を進める上で、行政に期待すること（複数回答）



依存症が疑われる患者への対応を進める上で、行政に期待することを、対応に関する課題の有無別にみると、精神科・心療内科では、課題の有無にかかわらず「医療機関を対象とする連携・相談ができる専門的な医療機関や回復支援施設に関する情報の提供」が最も多く、次いで「依存症が疑われる患者等への対応について医療機関が相談できる窓口の設置・周知」となっている。

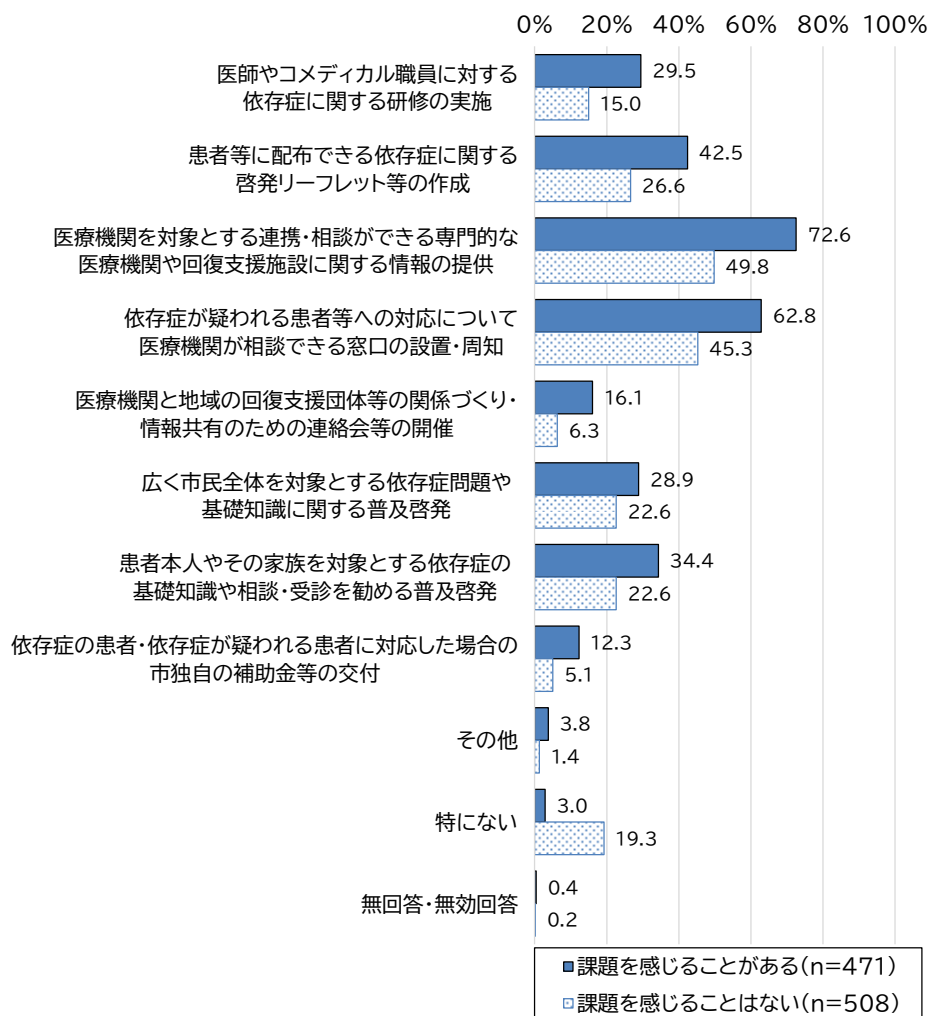
その他診療科目においても、課題の有無にかかわらず「医療機関を対象とする連携・相談ができる専門的な医療機関や回復支援施設に関する情報の提供」が最も多く、次いで「依存症が疑われる患者等への対応について医療機関が相談できる窓口の設置・周知」となっている。

図 38 依存症が疑われる患者への対応に関する課題の有無別、  
依存症が疑われる患者への対応を進める上で、行政に期待すること（精神科・心療内科、複数回答）



※ 課題の有無「無回答・無効回答」については、件数が少ない(n=2)ためグラフから捨象している。

図 39 依存症が疑われる患者への対応に関する課題の有無別、  
 依存症が疑われる患者への対応を進める上で、行政に期待すること（その他診療科目、複数回答）



※ 課題の有無「無回答・無効回答」については、件数が少ない(n=7)ためグラフから捨象している。

## 2. 調査結果のまとめ

### (1) 今年度結果の小括

- 依存症が疑われる患者への対応機会

横浜市内の医療機関においては、「精神科・心療内科」の約7割、および「その他診療科目」の約3割が、依存症が疑われる患者の対応が「年に数件程度」以上あると回答している(図15)。

また、その他診療科目においては、「内科系」と「複数の診療科目を標ぼうする病院」のいずれも4割以上が、依存症が疑われる患者の対応が「年に数件程度」以上あると回答しており、その他の診療科目カテゴリと比較して、対応機会が多い傾向にある(図16)。

- 薬物依存の拡大

疑われる依存症の種類については、「精神科・心療内科」、「その他診療科目」の双方で「アルコール依存症」に次いで「薬物依存症」が多くなっている。なお、疑われる依存症の種類のうち、「薬物依存症」のみが、「その他診療科目(53.5%)」の方が「精神科・心療内科(49.5%)」よりも回答割合が高い(図17)。

また、依存症の疑いに気付いたきっかけをみると、「患者の特定の薬剤の処方への要望から」という回答において、「その他診療科目」の回答割合が「精神科・心療内科」と比較して10ポイント以上高い(図18)。依存症が疑われる患者の主訴(自由回答)においても、「薬の要望」との回答は「精神科・心療内科」が5件(全体の約2%)であるのに対し、「その他診療科目」は57件(全体の約10%)となっている(図25)。

さらに、「市販薬や処方薬への依存が疑われる患者」の状況をみると、「増えている」「やや増えている」との回答は「精神科・心療内科」で47.6%、「その他診療科目」で37.6%となっている(図21)。

以上から、処方薬を含めた薬物への依存が広まっており、特に「その他診療科目」において薬物依存症の対応機会が多くなっている傾向が示唆される。

- 多様化する依存症

「精神科・心療内科」では、疑われる依存症の種類として、アルコールや薬物以外にも「ギャンブル等依存症」「ゲーム行動症」の回答が一定数見られる(図17)。

「精神科・心療内科」における依存症が疑われる患者のうち「10代後半から20代の若年層の患者」、「市販薬や処方薬への依存が疑われる患者」、「オンラインギャンブルへの依存が疑われる患者」の回答をみると、「増えている」「やや増えている」との回答が約3~5割となっており、「その他診療科目」(約2~4割)と比較して高い割合となっている(図20~図22)。これらの結果からは、「精神科・心療内科」において、依存症が疑われる患者の依存対象や患者の年齢層の多様化が進んでいることがうかがえる。

また、「(依存症の診断基準を満たしていないが)自身が依存症ではないかと不安を訴える患者」についてみると、「増えている」「やや増えている」との回答が「精神科・心療内科」で約4割、「その他診療科目」で約2割となっている(図23)。これらの結果からは、依存症の治療のためには医療機関を受診する必要があるという意識が市民に広まってきていることが考えられる。

### ● 依存症が疑われる患者への対応内容

現在行っている依存症が疑われる患者への対応については、「精神科・心療内科」、「その他診療科目」の双方で「依存症専門の医療機関(院内含む)や支援機関・団体へのつなぎ・紹介」が最も多くなっているが、「その他診療科目」の回答割合は、「精神科・心療内科」と比べて約 26 ポイント低くなっている。また、「依存症に対しては特に対応していない/特に対応したいと考えることはない」との回答割合は、「精神科・心療内科」が1.0%であるのに対し、「その他診療科目」が20.5%と高くなっている。(図 26)。

つなぎ・紹介を行ったことがある機関・団体についても、「依存症治療以外を専門とする医療機関」、「保護観察所」、「その他」の回答を除いたすべての回答において、「その他診療科目」の回答割合は「精神科・心療内科」よりも低い(図 28)。

他方で、依存症が疑われる患者に対して今後実施したい対応については、「依存症専門の医療機関(院内含む)や支援機関・団体へのつなぎ・紹介」、「依存症専門の医療機関や支援機関・団体に関する情報の提供(支援機関・団体のリストの配布、連絡先の案内など)」という回答において「その他診療科目」の回答割合が「精神科・心療内科」の回答割合を上回っている(図 27)。

このことから、「その他診療科目」は、「精神科・心療内科」と比較して、依存症が疑われる患者への対応機会が少ない現状である一方で、今後は依存症が疑われる患者への対応を実施していきたいと考えている医療機関が多いことがうかがえる。

### ● 依存症が疑われる患者への対応における課題

依存症が疑われる患者の来院・入院頻度別に見た、依存症が疑われる患者への対応に関する課題の有無をみると、「精神科・心療内科」と「その他診療科目」の間に大きな差は見られない(図 31、図 32)ことから、依存症が疑われる患者が来院している医療機関では、診療科目を問わず対応に課題を感じている様子がうかがえる。

また、「精神科・心療内科」における来院・入院頻度別に、対応上の課題の内訳をみると、対応の機会が多い医療機関では、具体的な対応に関する課題(例:継続受診や専門機関等の受診に向けた動機づけが困難、患者を取り巻く複合的な課題があり、自診療所(自診療科)だけでは対応しきれない等)に関する項目の回答割合が高くなっている。一方で、対応の機会が少ない、もしくは対応の機会がない医療機関では、対応そのものが難しいことが示唆される項目(例:治療が提供できない等)の回答割合が高い傾向にある(図 34)。

また、依存症が疑われる患者への対応における課題を、依存症が疑われる患者の来院・入院頻度別にみると、「その他診療科目」では、いずれの来院・入院頻度においても「依存症が疑われる患者への診断・対応に必要な情報が不足している」が最も多くなっている(図 35)。

このことから、依存症が疑われる患者への対応に関する課題の内容については、患者の来院・入院頻度に大きく影響を受ける様子がうかがえる。また、このような状況の改善に向けて、医療機関は対応に際しての連携・相談先に関する情報の提供を求めており、行政には情報の提供役を担うことへの期待が寄せられている。(図 36、図 37)。

## (2) 前回(令和3(2021)年度)結果との比較

### ● 依存症に対応可能な精神科・心療内科の増加

「精神科・心療内科」における依存症に対する治療の実施状況(図 40)について、令和 3 年度調査では行っている医療機関が 17.5%であるのに対し、令和 7 年度調査では 34.0%と大幅に増加している。また、依存症が疑われる患者の来院・入院頻度(図 41、図 42)については、令和 7 年度は「かなりある」「ある」「少ないがある」の回答割合の合計が「その他の診療科目」でわずかに低下しているのに対し、「精神科・心療内科」ではわずかに上昇している。

このことから、依存症に対する治療を実施する精神科・心療内科の医療機関が増加したことにより、依存症が疑われる患者が依存症治療を受けやすくなっている可能性が示唆される。

図 40 診療所(診療科)における依存症治療への対応状況の前回(令和 3 年度調査)比較(単一回答)

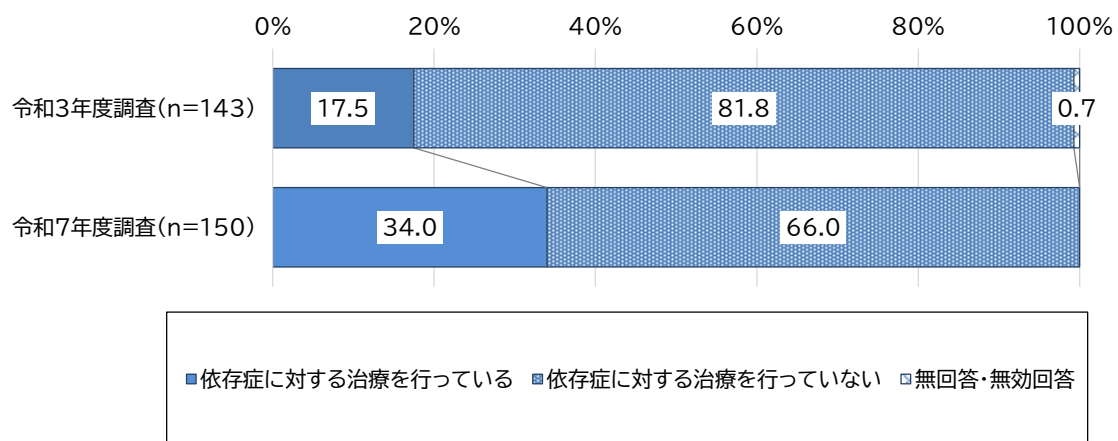
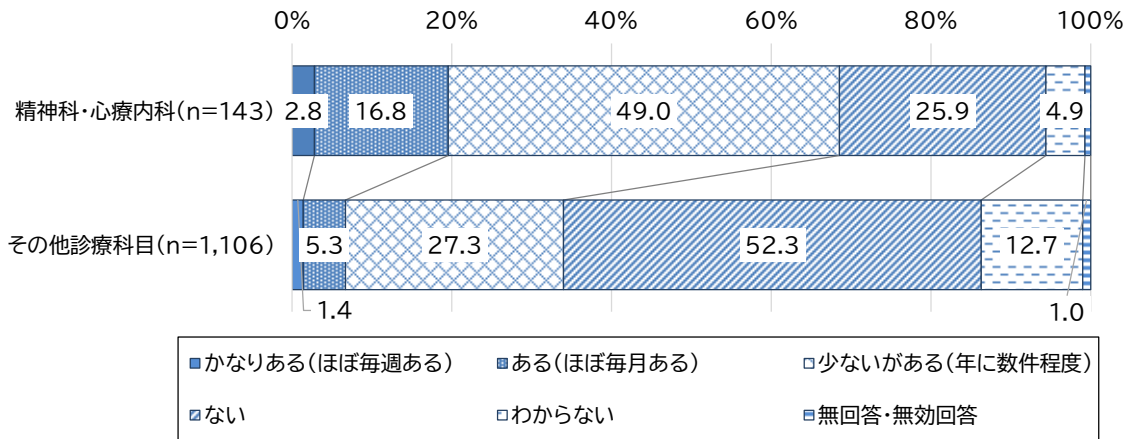
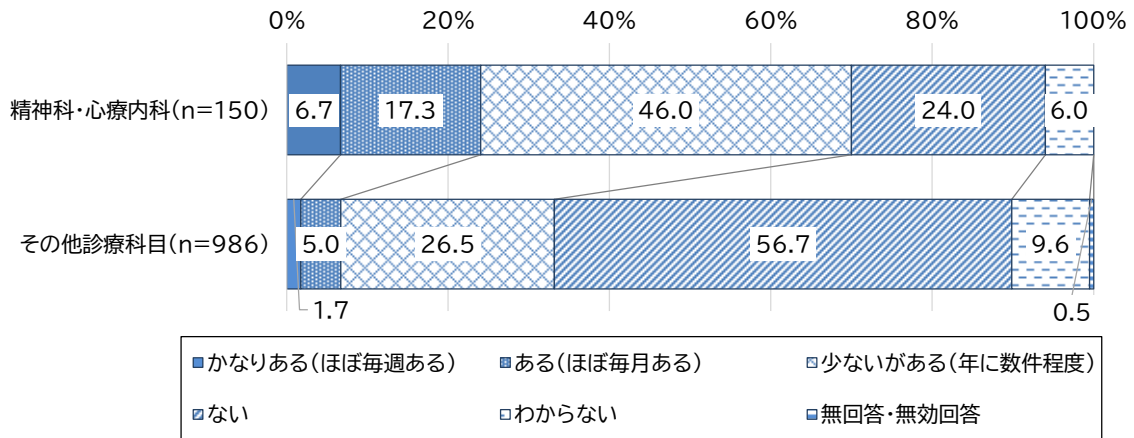


図 41 令和 3 年度調査 1 年間(2020 年 10 月 1 日から 2021 年 9 月 30 日)における、  
依存症が疑われる患者の来院・入院頻度(単一回答)



※ 出典:横浜市健康福祉局(令和 4 年 3 月)「依存症の疑いがある方の受診状況等に関するアンケート調査 調査結果報告書」

図 42 令和 7 年度調査 1 年間(2024 年 6 月 1 日から 2025 年 5 月 31 日)における、  
依存症が疑われる患者の来院・入院頻度(単一回答、図 15 再掲)

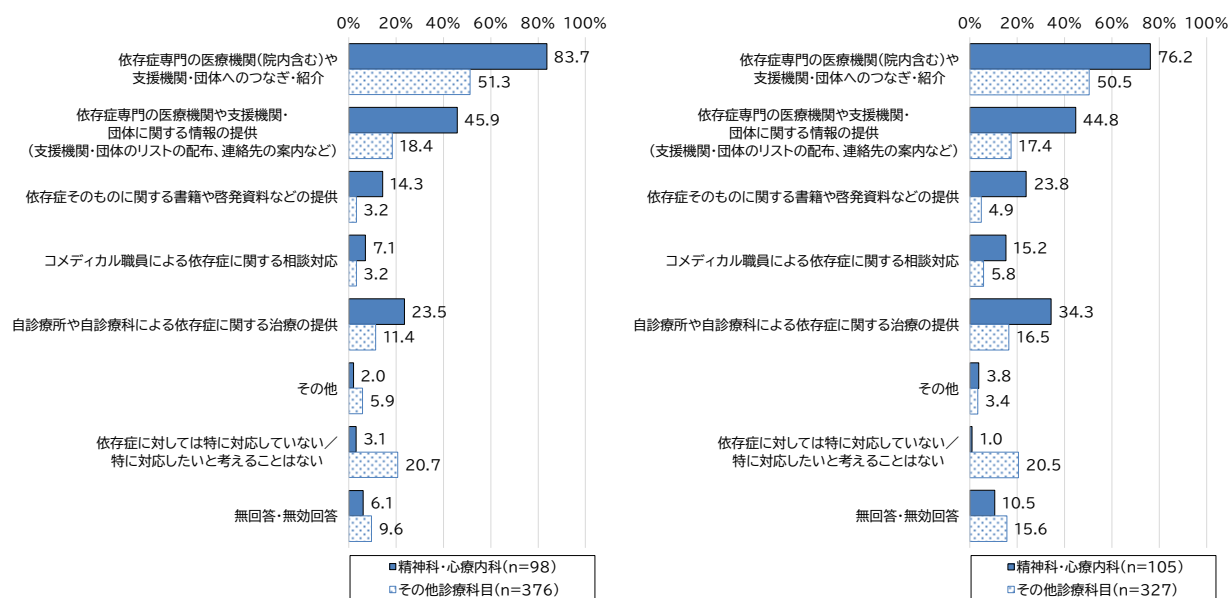


● 医療機関における依存症対応の広がり

依存症が疑われる患者に対して行っている対応(図 43)をみると、令和7年度調査では「精神科・心療内科」、「その他診療科目」とともに「依存症専門の医療機関(院内含む)や支援機関・団体へのつなぎ・紹介」の項目の回答割合はわずかに低下しているのに対し、「自診療所や自診療科による依存症に関する治療の提供」の回答割合がわずかに上昇しており、精神科・心療内科に限らず、依存症に対応可能な医療機関が増加している様子がうかがえる。

また、「依存症そのものに関する書籍や啓発資料などの提供」、「コメディカル職員による依存症に関する相談対応」についても、「精神科・心療内科」、「その他診療科目」とともに回答割合が上昇しており、医療機関における依存症対応が広がってきている様子がうかがえる。

図 43 依存症が疑われる患者に対して現在行っている対応(複数回答)  
令和3年度調査(左図)、令和7年度調査(右図、図 26 再掲)



※ 出典:横浜市健康福祉局(令和4年3月)「依存症の疑いがある方の受診状況等に関するアンケート調査 調査結果報告書」

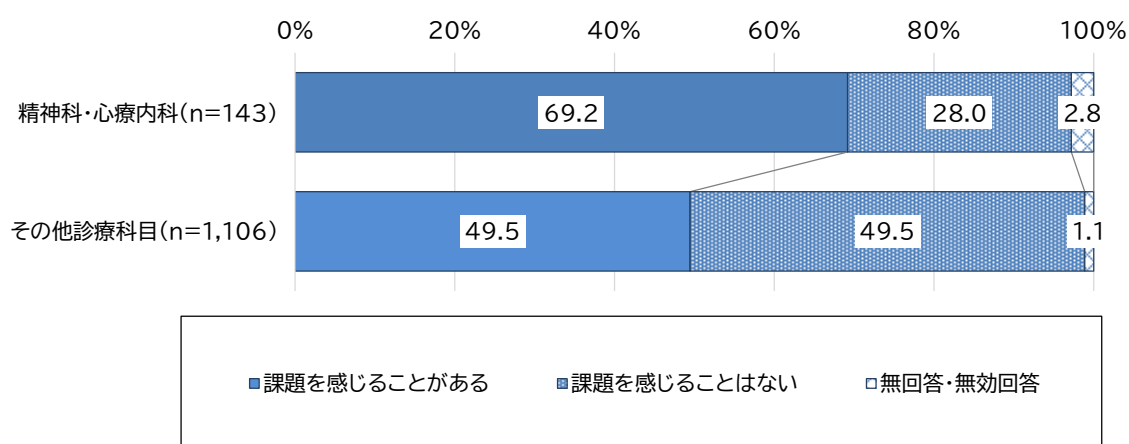
- 対応上の課題の具体化が進む

依存症が疑われる患者への対応に関する課題の有無(図 44、図 45)については、令和3年度から状況はほとんど変化しておらず、令和3年度・7年度ともに「精神科・心療内科」の約7割、「その他診療科目」の約5割が、依存症が疑われる患者への対応に課題を感じている。

具体的な課題の内容(図 46)については、「その他診療科目」では、「依存症が疑われる患者への診断・対応に必要な情報が不足している」が最も多い状況は変わっていない。一方で、「精神科・心療内科」では、令和7年度は、「患者を取り巻く複合的な課題があり、自診療所(自診療科)だけでは対応しきれない」、「通常の診察時間内に対応することが難しい」、「依存症が疑われる患者への治療や心理社会的療法が自診療所(自診療科)では提供できない」が「情報の不足」の選択肢を上回っている。このことから、令和3年度と比べて、依存症が疑われる患者への対応が発生している精神科・心療内科が増加しており、実際の依存症が疑われる患者への対応に際して具体的な課題が発生している様子がうかがえる。

これまでと同様、医療機関等に対する依存症対応に関する情報提供を継続することが重要であることに変わりはないものの、それに加えて、実際の依存症対応に際して発生する具体的な課題に対する支援が必要となっている可能性が示唆される。

図 44 令和3年度調査 依存症が疑われる患者への対応に関する課題の有無(単一回答)



※ 出典:横浜市健康福祉局(令和4年3月)「依存症の疑いがある方の受診状況等に関するアンケート調査 調査結果報告書」

図 45 令和 7 年度調査 依存症が疑われる患者への対応に関する課題の有無（単一回答、図 30 再掲）

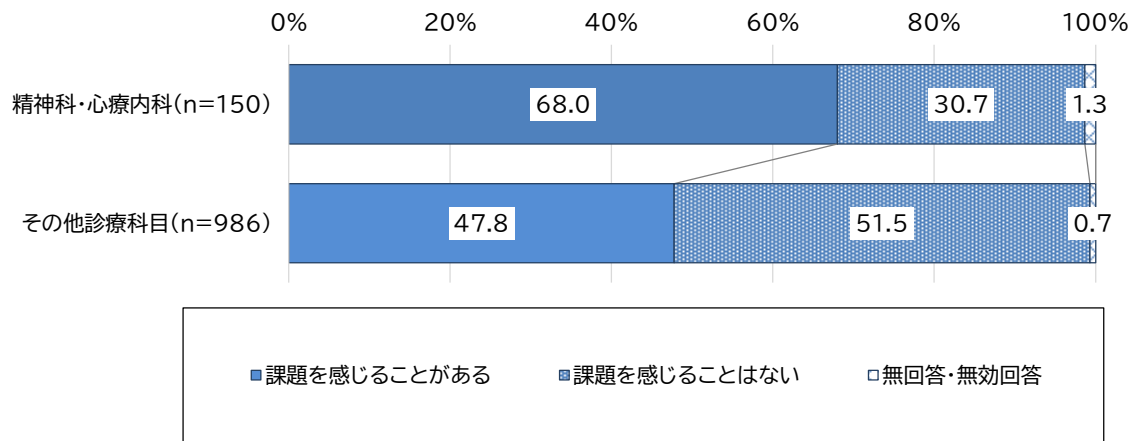
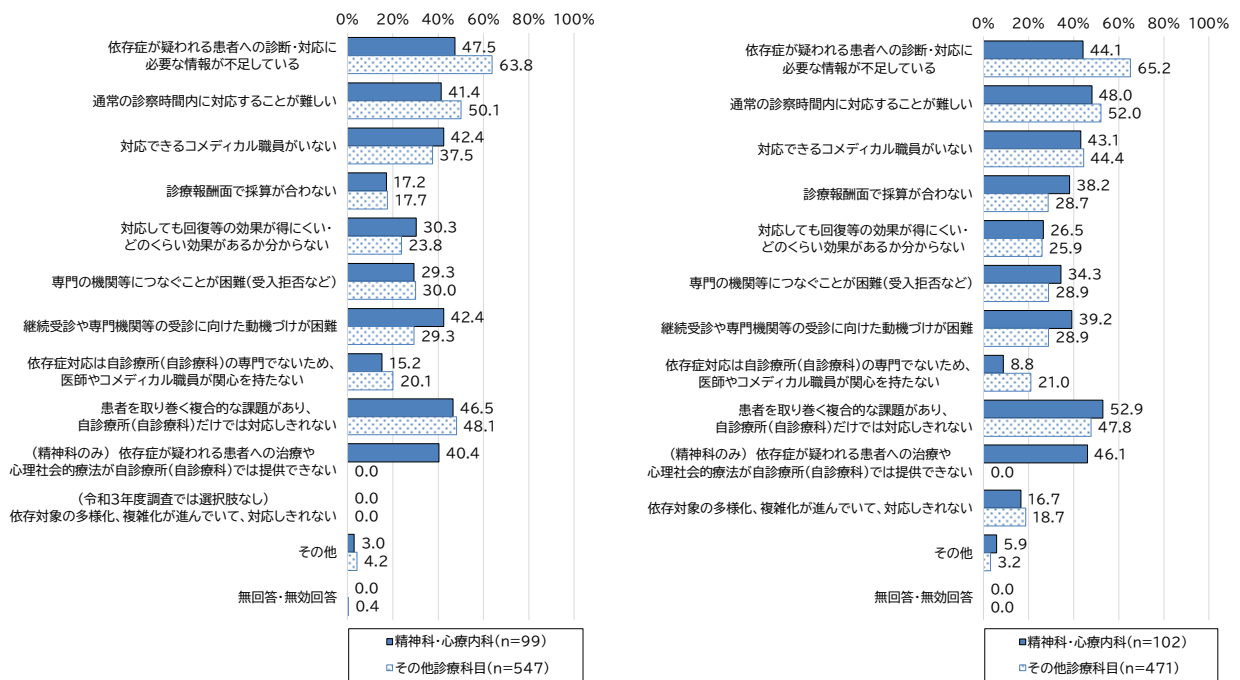


図 46 依存症が疑われる患者への対応における課題（複数回答）  
令和 3 年度調査(左図)、令和 7 年度調査(右図、図 33 再掲)



※ 左図出典:横浜市健康福祉局(令和 4 年 3 月)「依存症の疑いがある方の受診状況等に関するアンケート調査 調査結果報告書」

## 参考資料1 クロス集計表

調査票種別回収数

	件数		割合		割合(除無回答)	
	精神科・心療内科	その他診療科目	精神科・心療内科 n=150	その他診療科目 n=986	精神科・心療内科 n=150	その他診療科目 n=986
精神科・心療内科	150	0	100.0	0.0	100.0	0.0
その他診療科目	0	986	0.0	100.0	0.0	100.0
全体	150	986	100.0	100.0	100.0	100.0

### 診療所(診療科)の状況について

問1 貴診療所(貴診療科)の①所在地、②医療機関名(病院名)、③類型を教えてください。(①・②はそれぞれ下欄に記入、③は1つだけに○)

問1.1 ①所在地

	件数		割合		割合(除無回答)	
	精神科・心療内科	その他診療科目	精神科・心療内科 n=149	その他診療科目 n=986	精神科・心療内科 n=149	その他診療科目 n=975
鶴見区	9	61	6.0	6.2	6.0	6.3
神奈川区	11	71	7.4	7.2	7.4	7.3
西区	10	50	6.7	5.1	6.7	5.1
中区	12	69	8.1	7.0	8.1	7.1
南区	4	52	2.7	5.3	2.7	5.3
港南区	10	56	6.7	5.7	6.7	5.7
保土ヶ谷区	6	39	4.0	4.0	4.0	4.0
旭区	10	53	6.7	5.4	6.7	5.4
磯子区	4	31	2.7	3.1	2.7	3.2
金沢区	5	61	3.4	6.2	3.4	6.3
港北区	17	100	11.4	10.1	11.4	10.3
緑区	6	30	4.0	3.0	4.0	3.1
青葉区	12	94	8.1	9.5	8.1	9.6
都筑区	13	61	8.7	6.2	8.7	6.3
戸塚区	10	66	6.7	6.7	6.7	6.8
栄区	5	22	3.4	2.2	3.4	2.3
泉区	4	36	2.7	3.7	2.7	3.7
瀬谷区	1	23	0.7	2.3	0.7	2.4
無回答・無効回答	0	11	0.0	1.1	-	-
全体	149	986	100.0	100.0	100.0	100.0

問1.3 ③類型

	件数		割合		割合(除無回答)	
	精神科・心療内科	その他診療科目	精神科・心療内科 n=150	その他診療科目 n=986	精神科・心療内科 n=149	その他診療科目 n=978
病院	21	153	14.0	15.5	14.1	15.6
有床診療所	2	18	1.3	1.8	1.3	1.8
無床診療所	126	807	84.0	81.8	84.6	82.5
無回答・無効回答	1	8	0.7	0.8	-	-
全体	150	986	100.0	100.0	100.0	100.0

問2 貴診療所(貴診療科)で標ぼうしている診療科目を教えてください。(複数回答)

	件数		割合		割合(除無回答)	
	精神科・心療内科	その他診療科目	精神科・心療内科 n=0	その他診療科目 n=986	精神科・心療内科 n=0	その他診療科目 n=974
内科	0	544	-	55.2	-	55.9
呼吸器内科	0	102	-	10.3	-	10.5
循環器内科	0	169	-	17.1	-	17.4
消化器内科(胃腸内科)	0	201	-	20.4	-	20.6
腎臓内科	0	44	-	4.5	-	4.5
脳神経内科	0	84	-	8.5	-	8.6
糖尿病内科(代謝内科)	0	86	-	8.7	-	8.8
血液内科	0	24	-	2.4	-	2.5
皮膚科	0	167	-	16.9	-	17.1
アレルギー科	0	98	-	9.9	-	10.1
リウマチ科	0	50	-	5.1	-	5.1
感染症内科	0	5	-	0.5	-	0.5
小児科	0	172	-	17.4	-	17.7
外科	0	108	-	11.0	-	11.1
呼吸器外科	0	22	-	2.2	-	2.3
心臓血管外科	0	23	-	2.3	-	2.4
乳腺外科	0	36	-	3.7	-	3.7
気管食道外科	0	4	-	0.4	-	0.4
消化器外科(胃腸外科)	0	34	-	3.4	-	3.5
泌尿器科	0	87	-	8.8	-	8.9
肛門外科	0	25	-	2.5	-	2.6
脳神経外科	0	77	-	7.8	-	7.9
整形外科	0	160	-	16.2	-	16.4
形成外科	0	48	-	4.9	-	4.9
美容外科	0	8	-	0.8	-	0.8
眼科	0	37	-	3.8	-	3.8
耳鼻いんこう科	0	94	-	9.5	-	9.7
小児外科	0	7	-	0.7	-	0.7
産婦人科	0	77	-	7.8	-	7.9
産科	0	23	-	2.3	-	2.4
婦人科	0	50	-	5.1	-	5.1
リハビリテーション科	0	117	-	11.9	-	12.0
放射線科	0	42	-	4.3	-	4.3
麻酔科	0	47	-	4.8	-	4.8
病理診断科	0	18	-	1.8	-	1.8
臨床検査科	0	20	-	2.0	-	2.1
救急科	0	27	-	2.7	-	2.8
歯科(歯科・矯正歯科・小児歯科・歯科口腔外科)	0	19	-	1.9	-	2.0
その他	0	71	-	7.2	-	7.3
無回答・無効回答	0	12	-	1.2	-	-
全体	0	986	-	-	-	-

Q2.a 精神科問2 貴診療所(貴診療科)における依存症治療への対応状況を教えてください。(1つだけに○)

	件数		割合		割合(除無回答)	
	精神科・心療内科	その他診療科目	精神科・心療内科 n=150	その他診療科目 n=0	精神科・心療内科 n=150	その他診療科目 n=0
依存症に対する治療を行っている	51	0	34.0	-	34.0	-
依存症に対する治療を行っていない	99	0	66.0	-	66.0	-
無回答・無効回答	0	0	0.0	-	-	-
全体	150	0	100.0	-	100.0	-

※問1③において、「2.有床診療所」あるいは「3.無床診療所」と回答した方のみお答えください。

問3 問2で選択した診療科目のうち、主な診療科目を教えてください。(該当する科目の番号を1つだけ記入)

	件数		割合		割合(除無回答)	
	精神科・心療内科	その他診療科目	精神科・心療内科 n=0	その他診療科目 n=825	精神科・心療内科 n=0	その他診療科目 n=801
内科	0	290	-	35.2	-	36.2
呼吸器内科	0	10	-	1.2	-	1.2
循環器内科	0	25	-	3.0	-	3.1
消化器内科(胃腸内科)	0	44	-	5.3	-	5.5
腎臓内科	0	2	-	0.2	-	0.2
脳神経内科	0	9	-	1.1	-	1.1
糖尿病内科(代謝内科)	0	9	-	1.1	-	1.1
血液内科	0	0	-	0.0	-	0.0
皮膚科	0	53	-	6.4	-	6.6
アレルギー科	0	1	-	0.1	-	0.1
リウマチ科	0	3	-	0.4	-	0.4
感染症内科	0	1	-	0.1	-	0.1
小児科	0	62	-	7.5	-	7.7
外科	0	1	-	0.1	-	0.1
呼吸器外科	0	0	-	0.0	-	0.0
心臓血管外科	0	1	-	0.1	-	0.1
乳腺外科	0	6	-	0.7	-	0.7
気管食道外科	0	0	-	0.0	-	0.0
消化器外科(胃腸外科)	0	0	-	0.0	-	0.0
泌尿器科	0	22	-	2.7	-	2.7
肛門外科	0	1	-	0.1	-	0.1
脳神経外科	0	14	-	1.7	-	1.7
整形外科	0	80	-	9.7	-	10.0
形成外科	0	8	-	1.0	-	1.0
美容外科	0	2	-	0.2	-	0.2
眼科	0	3	-	0.4	-	0.4
耳鼻いんこう科	0	56	-	6.8	-	7.0
小児外科	0	0	-	0.0	-	0.0
産婦人科	0	43	-	5.2	-	5.4
産科	0	1	-	0.1	-	0.1
婦人科	0	10	-	1.2	-	1.2
リハビリテーション科	0	2	-	0.2	-	0.2
放射線科	0	1	-	0.1	-	0.1
麻酔科	0	3	-	0.4	-	0.4
病理診断科	0	0	-	0.0	-	0.0
臨床検査科	0	0	-	0.0	-	0.0
救急科	0	0	-	0.0	-	0.0
歯科(歯科・矯正歯科・小児歯科・歯科口腔外科)	0	1	-	0.1	-	0.1
その他	0	37	-	4.5	-	4.6
無回答・無効回答	0	24	-	2.9	-	-
全体	0	825	-	100.0	-	100.0

Q3.a 精神科問3 治療を行っている依存症の種類を教えてください。(複数回答)

	件数		割合		割合(除無回答)	
	精神科・心療内科	その他診療科目	精神科・心療内科 n=51	その他診療科目 n=0	精神科・心療内科 n=50	その他診療科目 n=0
アルコール依存症	45	0	88.2	-	90.0	-
薬物依存症	24	0	47.1	-	48.0	-
ギャンブル等依存症	19	0	37.3	-	38.0	-
ゲーム行動症(ゲーム障害)	11	0	21.6	-	22.0	-
その他	3	0	5.9	-	6.0	-
無回答・無効回答	1	0	2.0	-	-	-
全体	51	0	-	-	-	-

**依存症が疑われる患者への対応について**

問4 2024年6月1日から2025年5月31日の1年間において、貴診療所(貴診療科)のすべての患者の中で、何らかの依存症が疑われる患者(※)(以下、「依存症が疑われる患者」という)が来院・入院された頻度を教えてください。(1つだけ○)

(※)他の医療機関で依存症との確定診断を受けている患者は除外してご回答ください。

	件数		割合		割合(除無回答)	
	精神科・心療内科	その他診療科目	精神科・心療内科 n=150	その他診療科目 n=986	精神科・心療内科 n=150	その他診療科目 n=981
かなりある(ほぼ毎週ある)	10	17	6.7	1.7	6.7	1.7
ある(ほぼ毎月ある)	26	49	17.3	5.0	17.3	5.0
少ないがある(年に数件程度)	69	261	46.0	26.5	46.0	26.6
ない	36	559	24.0	56.7	24.0	57.0
わからない	9	95	6.0	9.6	6.0	9.7
無回答・無効回答	0	5	0.0	0.5	-	-
全体	150	986	100.0	100.0	100.0	100.0

※問5～問11は、問4で「1.かなりある(ほぼ毎週ある)」～「3.少ないがある(年に数件程度)」と回答した方のみご回答ください。(その他の方は問12へお進みください。)

問5 当該患者において、疑われる依存症の種類を教えてください。(複数回答)

	件数		割合		割合(除無回答)	
	精神科・心療内科	その他診療科目	精神科・心療内科 n=105	その他診療科目 n=327	精神科・心療内科 n=100	その他診療科目 n=317
アルコール依存症	91	233	86.7	71.3	91.0	73.5
薬物依存症	52	175	49.5	53.5	52.0	55.2
ギャンブル等依存症	32	9	30.5	2.8	32.0	2.8
ゲーム行動症(ゲーム障害)	27	21	25.7	6.4	27.0	6.6
依存対象等が不明	5	11	4.8	3.4	5.0	3.5
その他	10	19	9.5	5.8	10.0	6.0
無回答・無効回答	5	10	4.8	3.1	-	-
全体	105	327	-	-	-	-

問6 依存症が疑われる患者について、どのような点から依存症の疑いに気付かれたか教えてください。(複数回答)

	件数		割合		割合(除無回答)	
	精神科・心療内科	その他診療科目	精神科・心療内科 n=105	その他診療科目 n=327	精神科・心療内科 n=101	その他診療科目 n=321
患者の特定の薬剤の処方への要望から	31	133	29.5	40.7	30.7	41.4
患者の特定の薬剤の適正量以上の処方を求める訴えから	24	70	22.9	21.4	23.8	21.8
健康診断結果から	5	54	4.8	16.5	5.0	16.8
自医療機関で実施した各種検査の結果から	17	73	16.2	22.3	16.8	22.7
患者との身体的症状に関する診察中等の会話から	29	106	27.6	32.4	28.7	33.0
患者との精神的症状に関する診察中等の会話から	66	67	62.9	20.5	65.3	20.9
診察時の患者本人のしぐさ・様子(手の震え等)から	19	49	18.1	15.0	18.8	15.3
患者本人の既往歴や現病歴、服薬内容などから	50	133	47.6	40.7	49.5	41.4
患者本人の生活歴・生活習慣から	57	167	54.3	51.1	56.4	52.0
患者のご家族との会話から	47	96	44.8	29.4	46.5	29.9
その他	6	9	5.7	2.8	5.9	2.8
無回答・無効回答	4	6	3.8	1.8	-	-
全体	105	327	-	-	-	-

問7 貴診療所(貴診療科)において、どのような職種のスタッフが、患者の依存症の疑いに気が付くことが多いか教えてください。(複数回答)

	件数		割合		割合(除無回答)	
	精神科・心療内科	その他診療科目	精神科・心療内科 n=105	その他診療科目 n=327	精神科・心療内科 n=101	その他診療科目 n=319
医師	98	313	93.3	95.7	97.0	98.1
看護師・准看護師	21	139	20.0	42.5	20.8	43.6
精神保健福祉士・社会福祉士	11	4	10.5	1.2	10.9	1.3
臨床心理技術者(臨床心理士、公認心理師)	10	2	9.5	0.6	9.9	0.6
薬剤師	3	5	2.9	1.5	3.0	1.6
事務職	8	43	7.6	13.1	7.9	13.5
その他	2	5	1.9	1.5	2.0	1.6
無回答・無効回答	4	8	3.8	2.4	-	-
全体	105	327	-	-	-	-

問8 依存症が疑われる患者について、下記のような方の近年(直近2~3年)の増減状況について教えてください。(それぞれ当てはまるものに1つだけ○)

問8-1 ①10代後半から20代の若年層の患者

	件数		割合		割合(除無回答)	
	精神科・心療内科	その他診療科目	精神科・心療内科 n=105	その他診療科目 n=327	精神科・心療内科 n=68	その他診療科目 n=189
増えている	13	10	12.4	3.1	19.1	5.3
やや増えている	32	87	30.5	26.6	47.1	46.0
やや減っている	14	46	13.3	14.1	20.6	24.3
減っている	9	46	8.6	14.1	13.2	24.3
無回答・無効回答	37	138	35.2	42.2	-	-
全体	105	327	100.0	100.0	100.0	100.0

問8.2 ②市販薬や処方薬への依存が疑われる患者

	件数		割合		割合(除無回答)	
	精神科・心療内科	その他診療科目	精神科・心療内科 n=105	その他診療科目 n=327	精神科・心療内科 n=67	その他診療科目 n=203
増えている	11	13	10.5	4.0	16.4	6.4
やや増えている	39	110	37.1	33.6	58.2	54.2
やや減っている	12	55	11.4	16.8	17.9	27.1
減っている	5	25	4.8	7.6	7.5	12.3
無回答・無効回答	38	124	36.2	37.9	-	-
全体	105	327	100.0	100.0	100.0	100.0

問8.3 ③オンラインギャンブルへの依存が疑われる患者

	件数		割合		割合(除無回答)	
	精神科・心療内科	その他診療科目	精神科・心療内科 n=105	その他診療科目 n=327	精神科・心療内科 n=56	その他診療科目 n=133
増えている	6	5	5.7	1.5	10.7	3.8
やや増えている	31	53	29.5	16.2	55.4	39.8
やや減っている	9	37	8.6	11.3	16.1	27.8
減っている	10	38	9.5	11.6	17.9	28.6
無回答・無効回答	49	194	46.7	59.3	-	-
全体	105	327	100.0	100.0	100.0	100.0

問8.4 ④(依存症の診断基準を満たしていないが)自身が依存症ではないかと不安を訴える患者

	件数		割合		割合(除無回答)	
	精神科・心療内科	その他診療科目	精神科・心療内科 n=105	その他診療科目 n=327	精神科・心療内科 n=58	その他診療科目 n=172
増えている	3	8	2.9	2.4	5.2	4.7
やや増えている	34	70	32.4	21.4	58.6	40.7
やや減っている	13	53	12.4	16.2	22.4	30.8
減っている	8	41	7.6	12.5	13.8	23.8
無回答・無効回答	47	155	44.8	47.4	-	-
全体	105	327	100.0	100.0	100.0	100.0

問8.5 ⑤その他

	件数		割合		割合(除無回答)	
	精神科・心療内科	その他診療科目	精神科・心療内科 n=105	その他診療科目 n=327	精神科・心療内科 n=4	その他診療科目 n=29
増えている	1	8	1.0	2.4	25.0	27.6
やや増えている	2	8	1.9	2.4	50.0	27.6
やや減っている	1	9	1.0	2.8	25.0	31.0
減っている	0	4	0.0	1.2	0.0	13.8
無回答・無効回答	101	298	96.2	91.1	-	-
全体	105	327	100.0	100.0	100.0	100.0

貴診療所(貴診療科)において、依存症が疑われる患者に対して、①現在行っている対応について教えてください。②また、今後実施したいと考えている対応について教えてください。(①、②それぞれ該当する番号すべてに○)

問10.1 ①現在行っている対応(複数回答)

	件数		割合		割合(除無回答)	
	精神科・心療内科	その他診療科目	精神科・心療内科 n=105	その他診療科目 n=327	精神科・心療内科 n=94	その他診療科目 n=276
依存症専門の医療機関(院内含む)や支援機関・団体へのつなぎ・紹介	80	165	76.2	50.5	85.1	59.8
依存症専門の医療機関や支援機関・団体に関する情報の提供(支援機関・団体のリストの配布、連絡先の案内など)	47	57	44.8	17.4	50.0	20.7
依存症そのものに関する書籍や啓発資料などの提供	25	16	23.8	4.9	26.6	5.8
コメディカル職員による依存症に関する相談対応	16	19	15.2	5.8	17.0	6.9
自診療所や自診療科による依存症に関する治療の提供	36	54	34.3	16.5	38.3	19.6
その他	4	11	3.8	3.4	4.3	4.0
依存症に対しては特に対応していない/特に対応したいと考えることはない	1	67	1.0	20.5	1.1	24.3
無回答・無効回答	11	51	10.5	15.6	-	-
全体	105	327	-	-	-	-

問10.2 ②今後実施したいと考えている対応(複数回答)

	件数		割合		割合(除無回答)	
	精神科・心療内科	その他診療科目	精神科・心療内科 n=105	その他診療科目 n=327	精神科・心療内科 n=56	その他診療科目 n=213
依存症専門の医療機関(院内含む)や支援機関・団体へのつなぎ・紹介	43	149	41.0	45.6	76.8	70.0
依存症専門の医療機関や支援機関・団体に関する情報の提供(支援機関・団体のリストの配布、連絡先の案内など)	22	78	21.0	23.9	39.3	36.6
依存症そのものに関する書籍や啓発資料などの提供	20	59	19.0	18.0	35.7	27.7
コメディカル職員による依存症に関する相談対応	17	46	16.2	14.1	30.4	21.6
自診療所や自診療科による依存症に関する治療の提供	11	43	10.5	13.1	19.6	20.2
その他	3	7	2.9	2.1	5.4	3.3
依存症に対しては特に対応していない/特に対応したいと考えることはない	1	29	1.0	8.9	1.8	13.6
無回答・無効回答	49	114	46.7	34.9	-	-
全体	105	327	-	-	-	-

※問11は、問10の①あるいは②のいずれかにおいて、「1.依存症専門の医療機関(院内含む)や支援機関・団体へのつなぎ・紹介」と回答した方のみお答えいただけます。

問11 依存症が疑われる患者への対応において、①つなぎ・紹介を行ったことがある機関・団体を教えてください。また、②今後、つなぎ・紹介を行おうと考える機関・団体を教えてください。(①、②それぞれ該当する番号すべてに○)

問11.1 ①つなぎ・紹介を行ったことがある機関・団体(複数回答)

	件数		割合		割合(除無回答)	
	精神科・心療内科	その他診療科目	精神科・心療内科 n=80	その他診療科目 n=166	精神科・心療内科 n=79	その他診療科目 n=162
依存症治療を専門とする医療機関(自医療機関内の他科含む)	76	149	95.0	89.8	96.2	92.0
依存症治療以外を専門とする医療機関(自医療機関内の他科含む)	14	50	17.5	30.1	17.7	30.9
回復支援施設	15	3	18.8	1.8	19.0	1.9
家族会	13	3	16.3	1.8	16.5	1.9
自助グループ(AA, NA, GA, 断酒会等)	24	8	30.0	4.8	30.4	4.9
行政機関(県・市役所・区役所、区福祉保健センター)	21	15	26.3	9.0	26.6	9.3
精神保健福祉センター(こころの健康相談センター)	13	7	16.3	4.2	16.5	4.3
社会福祉協議会	3	2	3.8	1.2	3.8	1.2
地域ケアプラザ	7	11	8.8	6.6	8.9	6.8
精神障害者生活支援センター	8	4	10.0	2.4	10.1	2.5
基幹相談支援センター	6	1	7.5	0.6	7.6	0.6
障害や介護サービス事業所	6	2	7.5	1.2	7.6	1.2
法テラス・弁護士・司法書士	5	0	6.3	0.0	6.3	0.0
保護観察所	0	1	0.0	0.6	0.0	0.6
児童相談所	2	4	2.5	2.4	2.5	2.5
その他	0	2	0.0	1.2	0.0	1.2
無回答・無効回答	1	4	1.3	2.4	-	-
全体	80	166	-	-	-	-

問11.2 ②今後、つなぎ・紹介を行おうと考える機関・団体(複数回答)

	件数		割合		割合(除無回答)	
	精神科・心療内科	その他診療科目	精神科・心療内科 n=43	その他診療科目 n=151	精神科・心療内科 n=41	その他診療科目 n=138
依存症治療を専門とする医療機関(自医療機関内の他科含む)	22	95	51.2	62.9	53.7	68.8
依存症治療以外を専門とする医療機関(自医療機関内の他科含む)	8	36	18.6	23.8	19.5	26.1
回復支援施設	7	27	16.3	17.9	17.1	19.6
家族会	9	22	20.9	14.6	22.0	15.9
自助グループ(AA, NA, GA, 断酒会等)	14	26	32.6	17.2	34.1	18.8
行政機関(県・市役所・区役所、区福祉保健センター)	8	33	18.6	21.9	19.5	23.9
精神保健福祉センター(こころの健康相談センター)	7	32	16.3	21.2	17.1	23.2
社会福祉協議会	7	16	16.3	10.6	17.1	11.6
地域ケアプラザ	7	34	16.3	22.5	17.1	24.6
精神障害者生活支援センター	9	19	20.9	12.6	22.0	13.8
基幹相談支援センター	8	14	18.6	9.3	19.5	10.1
障害や介護サービス事業所	7	16	16.3	10.6	17.1	11.6
法テラス・弁護士・司法書士	9	15	20.9	9.9	22.0	10.9
保護観察所	7	14	16.3	9.3	17.1	10.1
児童相談所	8	11	18.6	7.3	19.5	8.0
その他	1	6	2.3	4.0	2.4	4.3
無回答・無効回答	2	13	4.7	8.6	-	-
全体	43	151	-	-	-	-

**依存症が疑われる患者への対応に当たっての課題や期待することについて**

※問12は、全員におうかがいします。

問12 貴診療所(貴診療科)において、依存症が疑われる患者への対応に関して課題を感じるかどうか教えてください。(1つだけ○)

	件数		割合		割合(除無回答)	
	精神科・心療内科	その他診療科目	精神科・心療内科 n=150	その他診療科目 n=986	精神科・心療内科 n=148	その他診療科目 n=979
課題を感じることもある	102	471	68.0	47.8	68.9	48.1
課題を感じることはない	46	508	30.7	51.5	31.1	51.9
無回答・無効回答	2	7	1.3	0.7	-	-
全体	150	986	100.0	100.0	100.0	100.0

※問13は、問12で「1.課題を感じることがある」と回答した方のみお答えいただけます。

問13 依存症が疑われる患者への対応に当たり、お感じになる課題を教えてください。(複数回答)

	件数		割合		割合(除無回答)	
	精神科・心療内科	その他診療科目	精神科・心療内科 n=102	その他診療科目 n=471	精神科・心療内科 n=102	その他診療科目 n=471
依存症が疑われる患者への診断・対応に必要な情報が不足している	45	307	44.1	65.2	44.1	65.2
通常の診察時間内に対応することが難しい	49	245	48.0	52.0	48.0	52.0
対応できるコメディカル職員がいない	44	209	43.1	44.4	43.1	44.4
診療報酬面で採算が合わない	39	135	38.2	28.7	38.2	28.7
対応しても回復等の効果が得にくい・どのくらい効果があるか分からない	27	122	26.5	25.9	26.5	25.9
専門の機関等につなぐことが困難(受入拒否など)	35	136	34.3	28.9	34.3	28.9
継続受診や専門機関等の受診に向けた動機づけが困難	40	136	39.2	28.9	39.2	28.9
依存症対応は自診療所(自診療科)の専門でないため、医師やコメディカル職員が関心を持たない	9	99	8.8	21.0	8.8	21.0
患者を取り巻く複合的な課題があり、自診療所(自診療科)だけでは対応しきれない	54	225	52.9	47.8	52.9	47.8
(精神科のみ) 依存症が疑われる患者への治療や心理社会的療法が自診療所(自診療科)では提供できない	47	0	46.1	0.0	46.1	0.0
依存対象の多様化、複雑化が進んでいて、対応しきれない	17	88	16.7	18.7	16.7	18.7
その他	6	15	5.9	3.2	5.9	3.2
無回答・無効回答	0	0	0.0	0.0	-	-
全体	102	471	-	-	-	-

※問14は、問13で「1.依存症が疑われる患者への診断・対応に必要な情報が不足している」と回答した方のみお答えいただけます。

問14 具体的にどのような情報が不足しているか教えてください。(複数回答)

	件数		割合		割合(除無回答)	
	精神科・心療内科	その他診療科目	精神科・心療内科 n=45	その他診療科目 n=307	精神科・心療内科 n=43	その他診療科目 n=306
依存症かどうか診断・確認するための視点・知識	16	218	35.6	71.0	37.2	71.2
依存症が疑われる患者に紹介できる相談窓口や支援機関・団体、医療機関に関する情報(社会資源リストなど)	34	239	75.6	77.9	79.1	78.1
依存症支援を行う他機関・団体との連携手順に関する情報	30	175	66.7	57.0	69.8	57.2
依存症の専門的な医療機関や回復支援団体などの具体的な治療・支援内容に関する情報	27	155	60.0	50.5	62.8	50.7
依存症が疑われる患者が来院等した場合に、自診療所(自診療科)が相談できる窓口に関する情報(連絡先など)	20	127	44.4	41.4	46.5	41.5
(精神科のみ) 自診療所(自診療科)で対応可能な具体的な治療や心理社会的療法に関する情報	13	0	28.9	0.0	30.2	0.0
その他	0	5	0.0	1.6	0.0	1.6
無回答・無効回答	2	1	4.4	0.3	-	-
全体	45	307	-	-	-	-

※問15は全員におうかがいします。

問15 貴診療所(貴診療科)が、依存症が疑われる患者への対応を進める上で、行政に期待することについて教えてください。(複数回答)

	件数		割合		割合(除無回答)	
	精神科・心療内科	その他診療科目	精神科・心療内科 n=150	その他診療科目 n=986	精神科・心療内科 n=148	その他診療科目 n=982
医師やコメディカル職員に対する依存症に関する研修の実施	37	216	24.7	21.9	25.0	22.0
患者等に配布できる依存症に関する啓発リーフレット等の作成	55	337	36.7	34.2	37.2	34.3
医療機関を対象とする連携・相談ができる専門的な医療機関や回復支援施設に関する情報の提供	85	598	56.7	60.6	57.4	60.9
依存症が疑われる患者等への対応について医療機関が相談できる窓口の設置・周知	61	529	40.7	53.7	41.2	53.9
医療機関と地域の回復支援団体等の関係づくり・情報共有のための連絡会等の開催	25	108	16.7	11.0	16.9	11.0
広く市民全体を対象とする依存症問題や基礎知識に関する普及啓発	34	251	22.7	25.5	23.0	25.6
患者本人やその家族を対象とする依存症の基礎知識や相談・受診を勧める普及啓発	49	278	32.7	28.2	33.1	28.3
依存症の患者・依存症が疑われる患者に対応した場合の市独自の補助金等の交付	25	84	16.7	8.5	16.9	8.6
その他	10	26	6.7	2.6	6.8	2.6
特になし	18	113	12.0	11.5	12.2	11.5
無回答・無効回答	2	4	1.3	0.4	-	-
全体	150	986	-	-	-	-

## 参考資料2 精神科・心療内科向け調査 アンケート調査票

### 依存症の疑いのある方の受診状況等に関するアンケート調査（精神科・心療内科向け）

#### 【ご記入に当たってのお願い】

- ▶ 本調査は、依存症の疑いのある方の受診状況や対応状況等を把握し、依存症対応にかかる医療機関間の円滑な連携に資する施策を検討するための基礎資料とすることを目的として実施します。
- ▶ 本調査票へのご回答は、管理者・責任者以外の方にも実施いただいても差し支えありません。ただし、**貴診療所（貴診療科）全体**の依存症への対応状況等についてご回答をお願いいたします。
- ▶ 貴医療機関が診療所であり、複数の診療科を標ぼうされている場合、**精神科・心療内科における依存症への対応等**についてのみご回答ください。
- ▶ 設問文等に特にことわりのない限り、2025年6月1日時点の状況をご回答ください。
- ▶ ご回答内容は、本調査以外の目的で使用することはありません。また、統計的に処理し、個別の回答内容が他の方に知られることは一切ありません。
- ▶ ご記入いただきました本調査票につきましては、同封の返信用封筒（茶色、切手不要）に封入・封緘の上、**2025年8月8日（金）（当日消印有効）**までに、ご投函ください。

#### ■調査実施主体（調査の目的・趣旨に関するお問い合わせ先）

横浜市 健康福祉局精神保健福祉課 担当：久保  
TEL：045-662-3554 FAX：045-662-3525 メールアドレス：kf-izon@city.yokohama.lg.jp

#### ■調査委託先（調査票の内容に関するお問い合わせ先）

株式会社浜銀総合研究所 地域戦略研究部 担当：江川・田中・藤好  
TEL：045-225-2372 FAX：045-225-2197 メールアドレス：yk-mhsw@yokohama-ri.co.jp

## 1. 貴診療所（貴診療科）の状況について

問1. 貴診療所（貴診療科）の①所在地、②医療機関名（病院名）、③類型を教えてください。

（①・②はそれぞれ下欄に記入、③は1つだけに○）

①所在地	横浜市：（ ）区	②貴医療機関名（※）	
③類型	1.病院	2.有床診療所	3.無床診療所

（※）②医療機関名の記入は任意です。よろしければ、ご記入ください。

問2. 貴診療所（貴診療科）における依存症治療への対応状況を教えてください。（1つだけに○）

1. 依存症に対する治療を行っている
2. 依存症に対する治療を行っていない（→問4へお進みください）

※問2において、「1.依存症に対する治療を行っている」と回答した方にのみにおうかがいします。

問3. 治療を行っている依存症の種類を教えてください。（すべてに○）

1. アルコール依存症
2. 薬物依存症
3. ギャンブル等依存症
4. ゲーム行動症（ゲーム障害）
5. その他（ ）

## 2. 貴診療所（貴診療科）の依存症が疑われる患者への対応について

※問4は、全員におうかがいします。

問4. 2024年6月1日から2025年5月31日の1年間において、貴診療所（貴診療科）の全ての患者の中で、何らかの依存症が疑われる患者（※）（以下、「依存症が疑われる患者」という）が来院・入院された頻度を教えてください。（1つだけ○）

（※）他の医療機関で依存症との確定診断を受けている患者は除外してご回答ください。

1. かなりある（ほぼ毎週ある）
2. ある（ほぼ毎月ある）
3. 少ないがある（年に数件程度）
4. ない
5. わからない

▶ 4ページの問12へお進みください。

※問5～問11は、問4で「1.かなりある(ほぼ毎週ある)」～「3.少ないがある(年に数件程度)」と回答した方のみご回答ください。(その他の方は問12へお進みください。)

問5. 当該患者において、疑われる依存症の種類を教えてください。(すべてに○)

1. アルコール依存症	2. 薬物依存症	3. ギャンブル等依存症
4. ゲーム行動症 (ゲーム障害)	5. 依存対象等が不明	
6. その他 ( )		

問6. 依存症が疑われる患者について、どのような点から依存症の疑いに気付かれたか教えてください。(すべてに○)

1. 患者の特定の薬剤の処方への要望から	2. 患者の特定の薬剤の適正量以上の処方を求める訴えから
3. 健康診断結果から	4. 自医療機関で実施した各種検査の結果から
5. 患者との身体的症状に関する診察中等の会話から	6. 患者との精神的症状に関する診察中等の会話から
7. 診察時の患者本人のしぐさ・様子 (手の震え等) から	8. 患者本人の既往歴や現病歴、服薬内容などから
9. 患者本人の生活歴・生活習慣から	10. 患者のご家族との会話から
11. その他 ( )	

問7. 貴診療所 (貴診療科) において、どのような職種のスタッフが、患者の依存症の疑いに気が付くことが多いか教えてください。(すべてに○)

1. 医師	2. 看護師・准看護師	3. 精神保健福祉士・社会福祉士
4. 臨床心理技術者 (臨床心理士、公認心理師)	5. 薬剤師	6. 事務職
7. その他 ( )		

問8. 依存症が疑われる患者について、下記のような方の近年 (直近2～3年) の増減状況について教えてください。(それぞれ当てはまるもの1つに○)

	増えている	やや増えている	やや減っている	減っている
①10代後半から20代の若年層の患者	1	2	3	4
②市販薬や処方薬への依存が疑われる患者	1	2	3	4
③オンラインギャンブルへの依存が疑われる患者	1	2	3	4
④ (依存症の診断基準を満たしていないが) 自身が依存症ではないかと不安を訴える患者	1	2	3	4
⑤その他 ( )	1	2	3	4

問9. 依存症が疑われる患者について、貴診療所 (貴診療科) を受診した際の主訴で多いものを教えてください。(上位3事例※) (下欄に自由回答)

主訴①	
主訴②	
主訴③	

(※) 主訴が3種以下の場合、依存症が疑われる方の受診が2人以下の場合などにおいては、ご回答いただける範囲でご記入ください。

問10. 貴診療所（貴診療科）において、依存症が疑われる患者に対して、①現在行っている対応について教えてください。②また、今後実施したいと考えている対応について教えてください。（①、②それぞれ該当する番号すべてに○）

依存症が疑われる患者への対応	①現在行っている対応	②今後実施したいと考えている対応
依存症専門の医療機関（院内含む）や支援機関・団体へのつなぎ・紹介	1	1
依存症専門の医療機関や支援機関・団体に関する情報の提供（支援機関・団体のリストの配布、連絡先の案内など）	2	2
依存症そのものに関する書籍や啓発資料などの提供	3	3
コメディカル職員による依存症に関する相談対応	4	4
自診療所や自診療科による依存症に関する治療の提供	5	5
その他（ ）	6	6
依存症に対しては特に対応していない／特に対応したいと考えることはない	7	7

※問11は、問10の①あるいは②のいずれかにおいて、「1. 依存症専門の医療機関（院内含む）や支援機関・団体へのつなぎ・紹介」と回答した方のみお答えください。

問11. 依存症が疑われる患者への対応において、①つなぎ・紹介を行ったことがある機関・団体を教えてください。また、②今後、つなぎ・紹介を行おうと考える機関・団体を教えてください。（①、②それぞれ該当する番号すべてに○）

医療機関（院内含む）や支援機関・団体	①つなぎ・紹介を行ったことがある機関・団体	②今後、つなぎ・紹介を行おうと考える機関・団体
依存症治療を専門とする医療機関（自医療機関内の他科含む）	1	1
依存症治療以外を専門とする医療機関（自医療機関内の他科含む）	2	2
回復支援施設	3	3
家族会	4	4
自助グループ（AA、NA、GA、断酒会等）	5	5
行政機関（県・市役所・区役所、区福祉保健センター）	6	6
精神保健福祉センター（こころの健康相談センター）	7	7
社会福祉協議会	8	8
地域ケアプラザ	9	9
精神障害者生活支援センター	10	10
基幹相談支援センター	11	11
障害や介護サービス事業所	12	12
法テラス・弁護士・司法書士	13	13
保護観察所	14	14
児童相談所	15	15
その他（ ）	16	16

### 3. 依存症が疑われる患者への対応に当たっての課題や期待することについて

※問 12 は、全員におうかがいします。

問 12. 貴診療所（貴診療科）において、依存症が疑われる患者への対応に関して課題を感じるかどうか教えてください。（1つだけ○）

- |                |                |           |
|----------------|----------------|-----------|
| 1. 課題を感じることもある | 2. 課題を感じることはない | (→問 15 へ) |
|----------------|----------------|-----------|

※問 13 は、問 12 で「1. 課題を感じることもある」と回答した方のみにおうかがいします。

問 13. 依存症が疑われる患者への対応に当たり、お感じになる課題を教えてください。（すべてに○）

- |   |   |
|---|---|
| 1. 依存症が疑われる患者への診断・対応に必要な情報が不足している               |   |
| 2. 通常の診察時間内に対応することが難しい                          |   |
| 3. 対応できるコメディカル職員がいない                            |   |
| 4. 診療報酬面で採算が合わない                                |   |
| 5. 対応しても回復等の効果が得にくい・どのくらい効果があるか分からない            |   |
| 6. 専門の機関等につなぐことが困難（受入拒否など）                      |   |
| 7. 継続受診や専門機関等の受診に向けた動機づけが困難                     |   |
| 8. 依存症対応は自診療所（自診療科）の専門でないため、医師やコメディカル職員が関心を持たない |   |
| 9. 患者を取り巻く複合的な課題があり、自診療所（自診療科）だけでは対応しきれない       |   |
| 10. 依存症が疑われる患者への治療や心理社会的療法が自診療所（自診療科）では提供できない   |   |
| 11. 依存対象の多様化、複雑化が進んでいて、対応しきれない                  |   |
| 12. その他（  | ） |

※問 14 は、問 13 で「1. 依存症が疑われる患者への診断・対応に必要な情報が不足している」と回答した方のみにおうかがいします。

問 14. 具体的にどのような情報が不足しているか教えてください。（すべてに○）

- |  |   |
|--|---|
| 1. 依存症かどうか診断・確認するための視点・知識                              |   |
| 2. 依存症が疑われる患者に紹介できる相談窓口や支援機関・団体、医療機関に関する情報（社会資源リストなど）  |   |
| 3. 依存症支援を行う他機関・団体との連携手順に関する情報                          |   |
| 4. 依存症の専門的な医療機関や回復支援団体などの具体的な治療・支援内容に関する情報             |   |
| 5. 依存症が疑われる患者が来院等した場合に、自診療所（自診療科）が相談できる窓口に関する情報（連絡先など） |   |
| 6. 自診療所（自診療科）で対応可能な具体的な治療や心理社会的療法に関する情報                |   |
| 7. その他（  | ） |

※問 15 は全員におうかがいします。

問 15. 貴診療所（貴診療科）が、依存症が疑われる患者への対応を進める上で、行政に期待することについて教えてください。（すべてに○）

- |  |   |
|--|---|
| 1. 医師やコメディカル職員に対する依存症に関する研修の実施                 |   |
| 2. 患者等に配布できる依存症に関する啓発リーフレット等の作成                |   |
| 3. 医療機関を対象とする連携・相談ができる専門的な医療機関や回復支援施設に関する情報の提供 |   |
| 4. 依存症が疑われる患者等への対応について医療機関が相談できる窓口の設置・周知       |   |
| 5. 医療機関と地域の回復支援団体等の関係づくり・情報共有のための連絡会等の開催       |   |
| 6. 広く市民全体を対象とする依存症問題や基礎知識に関する普及啓発              |   |
| 7. 患者本人やその家族を対象とする依存症の基礎知識や相談・受診を勧める普及啓発       |   |
| 8. 依存症の患者・依存症が疑われる患者に対応した場合の市独自の補助金等の交付        |   |
| 9. その他（  | ） |
| 10. 特になし                                       |   |

－ 本調査は以上で終了です。お忙しい中、ご協力ありがとうございました。 －

## 参考資料3 その他診療科目向け調査 アンケート調査票

### 依存症の疑いのある方の受診状況等に関するアンケート調査（精神科・心療内科以外向け）

#### 【ご記入に当たってのお願い】

- ▶ 本調査は、依存症の疑いのある方の受診状況や対応状況等を把握し、依存症対応にかかる医療機関間の円滑な連携に資する施策を検討するための基礎資料とすることを目的として実施します。
- ▶ 本調査票へのご回答は、管理者・責任者以外の方に実施いただいても差し支えありません。ただし、**貴診療所（貴診療科）全体**の依存症への対応状況等についてご回答をお願いいたします。
- ▶ 設問文等に特にことわりのない限り、2025年6月1日時点の状況をご回答ください。
- ▶ ご回答いただいた内容につきましては、本調査以外の目的で使用することはありません。また、統計的に処理いたしますので、個別の回答内容が他の方に知られることは一切ありません。
- ▶ ご記入いただきました本調査票につきましては、同封の返信用封筒（茶色、切手不要）に封入・封緘の上、2025年8月8日（金）（当日消印有効）までに、ご投函ください。

#### ■調査実施主体（調査の目的・趣旨に関するお問い合わせ先）

横浜市 健康福祉局精神保健福祉課 担当：久保

TEL：045-662-3554 FAX：045-662-3525 メールアドレス：kf-izon@city.yokohama.lg.jp

#### ■調査委託先（調査票の内容に関するお問い合わせ先）

株式会社浜銀総合研究所 地域戦略研究部 担当：江川・田中・藤好

TEL：045-225-2372 FAX：045-225-2197 メールアドレス：yk-mhsw@yokohama-ri.co.jp

## 1. 貴診療所（貴診療科）の状況について

問1. 貴診療所（貴診療科）の①所在地、②医療機関名（病院名）、③類型を教えてください。

（①・②はそれぞれ下欄に記入、③は1つだけに○）

①所在地	横浜市：（ ）区	②貴医療機関名（※）	
③類型	1.病院	2.有床診療所	3.無床診療所

（※）②医療機関名の記入は任意です。よろしければ、ご記入ください。

問2. 貴診療所（貴診療科）で標ぼうしている診療科目を教えてください。（すべてに○）

1. 内科	2. 呼吸器内科	3. 循環器内科	4. 消化器内科（胃腸内科）
5. 腎臓内科	6. 脳神経内科	7. 糖尿病内科（代謝内科）	8. 血液内科
9. 皮膚科	10. アレルギー科	11. リウマチ科	12. 感染症内科
13. 小児科	14. 外科	15. 呼吸器外科	16. 心臓血管外科
17. 乳腺外科	18. 気管食道外科	19. 消化器外科（胃腸外科）	20. 泌尿器科
21. 肛門外科	22. 脳神経外科	23. 整形外科	24. 形成外科
25. 美容外科	26. 眼科	27. 耳鼻いんこう科	28. 小児外科
29. 産婦人科	30. 産科	31. 婦人科	32. リハビリテーション科
33. 放射線科	34. 麻酔科	35. 病理診断科	36. 臨床検査科
37. 救急科	38. 歯科（歯科・矯正歯科・小児歯科・歯科口腔外科）		
39. その他（ ）			

※問1③において、「2.有床診療所」あるいは「3.無床診療所」と回答した方にのみおうかがいします。

問3. 問2で選択した診療科目のうち、主な診療科目を教えてください。（該当する科目の番号を1つだけ記入）

主な診療科目 （問2の選択肢の番号を記入）	
--------------------------	--

## 2. 貴診療所（貴診療科）の依存症が疑われる患者への対応について

問4. 2024年6月1日から2025年5月31日の1年間において、貴診療所（貴診療科）のすべての患者の中で、何らかの依存症が疑われる患者（※）（以下、「依存症が疑われる患者」という）が来院・入院された頻度を教えてください。（1つだけ○）

（※）他の医療機関で依存症との確定診断を受けている患者は除外してご回答ください。

- |                     |               |                   |
|---------------------|---------------|-------------------|
| 1. かなりある（ほぼ毎週ある）    | 2. ある（ほぼ毎月ある） | 3. 少ないがある（年に数件程度） |
| 4. ない →4 ページの間 12 へ | 5. わからない      | →4 ページの間 12 へ     |

※問5～問11は、問4で「1.かなりある(ほぼ毎週ある)」～「3.少ないがある(年に数件程度)」と回答した方のみご回答ください。（その他の方は問12へお進みください。）

問5. 当該患者において、疑われる依存症の種類を教えてください。（すべてに○）

- |                  |             |              |
|------------------|-------------|--------------|
| 1. アルコール依存症      | 2. 薬物依存症    | 3. ギャンブル等依存症 |
| 4. ゲーム行動症（ゲーム障害） | 5. 依存対象等が不明 | 6. その他（      |

問6. 依存症が疑われる患者について、どのような点から依存症の疑いに気付かれたか教えてください。（すべてに○）

- |                             |                              |
|-----------------------------|------------------------------|
| 1. 患者の特定の薬剤の処方への要望から        | 2. 患者の特定の薬剤の適正量以上の処方を求める訴えから |
| 3. 健康診断結果から                 | 4. 自医療機関で実施した各種検査の結果から       |
| 5. 患者との身体的症状に関する診察中等の会話から   | 6. 患者との精神的症状に関する診察中等の会話から    |
| 7. 診察時の患者本人のしぐさ・様子（手の震え等）から | 8. 患者本人の既往歴や現病歴、服薬内容などから     |
| 9. 患者本人の生活歴・生活習慣から          | 10. 患者のご家族との会話から             |
| 11. その他（                    |                              |

問7. 貴診療所（貴診療科）において、どのような職種のスタッフが、患者の依存症の疑いに気が付くことが多いか教えてください。（すべてに○）

- |                         |             |                  |
|-------------------------|-------------|------------------|
| 1. 医師                   | 2. 看護師・准看護師 | 3. 精神保健福祉士・社会福祉士 |
| 4. 臨床心理技術者（臨床心理士、公認心理師） | 5. 薬剤師      | 6. 事務職           |
| 7. その他（                 |             |                  |

問8. 依存症が疑われる患者について、下記のような方の近年（直近2～3年）の増減状況について教えてください。（それぞれ当てはまるものに1つだけ○）

	増えている	やや増えている	やや減っている	減っている
①10代後半から20代の若年層の患者	1	2	3	4
②市販薬や処方薬への依存が疑われる患者	1	2	3	4
③オンラインギャンブルへの依存が疑われる患者	1	2	3	4
④（依存症の診断基準を満たしていないが）自身が依存症ではないかと不安を訴える患者	1	2	3	4
⑤その他（	1	2	3	4

問9. 依存症が疑われる患者について、貴診療所（貴診療科）を受診した際の主訴で多いものを教えてください。（上位3事例※）（下欄に自由回答）

事例①	
事例②	
事例③	

（※）主訴が3種以下の場合、あるいは依存症が疑われる方の受診が2人以下の場合などにおいては、ご回答いただける範囲でご記入ください。

問10. 貴診療所（貴診療科）において、依存症が疑われる患者に対して、①現在行っている対応について教えてください。②また、今後実施したいと考えている対応について教えてください。（①、②それぞれ該当する番号すべてに○）

依存症が疑われる患者への対応	①現在行っている対応	②今後実施したいと考えている対応
依存症専門の医療機関（院内含む）や支援機関・団体へのつなぎ・紹介	1	1
依存症専門の医療機関や支援機関・団体に関する情報の提供（支援機関・団体のリストの配布、連絡先の案内など）	2	2
依存症そのものに関する書籍や啓発資料などの提供	3	3
コメディカル職員による依存症に関する相談対応	4	4
自診療所や自診療科による依存症に関する治療の提供	5	5
その他（ ）	6	6
依存症に対しては特に対応していない／特に対応したいと考えることはない	7	7

※問11は、問10の①あるいは②のいずれかにおいて、「1.依存症専門の医療機関（院内含む）や支援機関・団体へのつなぎ・紹介」と回答した方のみおつかがいします。

→ 問11. 依存症が疑われる患者への対応において、①つなぎ・紹介を行ったことがある機関・団体を教えてください。また、②今後、つなぎ・紹介を行おうと考える機関・団体を教えてください。（①、②それぞれ該当する番号すべてに○）

医療機関（院内含む）や支援機関・団体	①つなぎ・紹介を行ったことがある機関・団体	②今後、つなぎ・紹介を行おうと考える機関・団体
依存症治療を専門とする医療機関（自医療機関内の他科含む）	1	1
依存症治療以外を専門とする医療機関（自医療機関内の他科含む）	2	2
回復支援施設	3	3
家族会	4	4
自助グループ（AA、NA、GA、断酒会等）	5	5
行政機関（県・市役所・区役所、区福祉保健センター）	6	6
精神保健福祉センター（こころの健康相談センター）	7	7
社会福祉協議会	8	8
地域ケアプラザ	9	9
精神障害者生活支援センター	10	10
基幹相談支援センター	11	11
障害や介護サービス事業所	12	12
法テラス・弁護士・司法書士	13	13
保護観察所	14	14
児童相談所	15	15
その他（ ）	16	16

### 3. 依存症が疑われる患者への対応に当たっての課題や期待することについて

※問 12 は、全員におうかがいします。

問 12. 貴診療所（貴診療科）において、依存症が疑われる患者への対応に関して課題を感じるかどうか教えてください。（1つだけ○）

- |                |                         |
|----------------|-------------------------|
| 1. 課題を感じることもある | 2. 課題を感じることはない（→問 15 へ） |
|----------------|-------------------------|

※問 13 は、問 12 で「1. 課題を感じることもある」と回答した方のみにおうかがいします。

問 13. 依存症が疑われる患者への対応に当たり、お感じになる課題を教えてください。（すべてに○）

- |   |
|---|
| 1. 依存症が疑われる患者への診断・対応に必要な情報が不足している               |
| 2. 通常の診察時間内に対応することが難しい                          |
| 3. 対応できるコメディカル職員がいない                            |
| 4. 診療報酬面で採算が合わない                                |
| 5. 対応しても回復等の効果が得にくい・どのくらい効果があるか分からない            |
| 6. 専門の機関等につなぐことが困難（受入拒否など）                      |
| 7. 継続受診や専門機関等の受診に向けた動機づけが困難                     |
| 8. 依存症対応は自診療所（自診療科）の専門でないため、医師やコメディカル職員が関心を持たない |
| 9. 患者を取り巻く複合的な課題があり、自診療所（自診療科）だけでは対応しきれない       |
| 10. 依存対象の多様化、複雑化が進んでいて、対応しきれない                  |
| 11. その他（ ）                                      |

※問 14 は、問 13 で「1. 依存症が疑われる患者への診断・対応に必要な情報が不足している」と回答した方のみにおうかがいします。

問 14. 具体的にどのような情報が不足しているか教えてください。（すべてに○）

- |  |
|--|
| 1. 依存症かどうか診断・確認するための視点・知識                              |
| 2. 依存症が疑われる患者に紹介できる相談窓口や支援機関・団体、医療機関に関する情報（社会資源リストなど）  |
| 3. 依存症支援を行う他機関・団体との連携手順に関する情報                          |
| 4. 依存症の専門的な医療機関や回復支援団体などの具体的な治療・支援内容に関する情報             |
| 5. 依存症が疑われる患者が来院等した場合に、自診療所（自診療科）が相談できる窓口に関する情報（連絡先など） |
| 6. その他（ ）  |

※問 15 は全員におうかがいします。

問 15. 貴診療所（貴診療科）が、依存症が疑われる患者への対応を進める上で、行政に期待することについて教えてください。（すべてに○）

- |  |
|--|
| 1. 医師やコメディカル職員に対する依存症に関する研修の実施                 |
| 2. 患者等に配布できる依存症に関する啓発リーフレット等の作成                |
| 3. 医療機関を対象とする連携・相談ができる専門的な医療機関や回復支援施設に関する情報の提供 |
| 4. 依存症が疑われる患者等への対応について医療機関が相談できる窓口の設置・周知       |
| 5. 医療機関と地域の回復支援団体等の関係づくり・情報共有のための連絡会等の開催       |
| 6. 広く市民全体を対象とする依存症問題や基礎知識に関する普及啓発              |
| 7. 患者本人やその家族を対象とする依存症の基礎知識や相談・受診を勧める普及啓発       |
| 8. 依存症の患者・依存症が疑われる患者に対応した場合の市独自の補助金等の交付        |
| 9. その他（ ）                                      |
| 10. 特になし                                       |

－ 本調査は以上で終了です。お忙しい中、ご協力ありがとうございました。 －